拾遺

都名所圖會

後玄武
右白虎

拾遺都名所圖會卷之三目録

後玄武

加茂淀寺とめさうの梅
木刀坂
妙見社
圓通寺 潮音堂
神明宮
静原
足洒石
大悲山 補遺
花瀬峠
牛若九宅地 役行者坐禅石
花園
亀山
炭焼 鞍馬の奥くろ 都へ運送の圖
立田祠
茶王坂
蛍石
乳巖
車坂
惟喬般若
桟敷嶽
小野橋
西寿寺 五百羅漢像
大豆塚
幡枝八幡宮
福惜昆沙門
小野皇后羽趾
歸一法眼塚
宮中拉為
滿樹峠
雄香祠
小野皇社
櫻井
辨天社
升塚
栗徳辨天
巷辻
梶取社
龍王瀧
溪川筏流
玄畑
岩屋山 鞍摩洞 香水 飛龍瀧
為業宮

御栗栖野
二子塚
小野道風社（景の詩和香水碑）
天皇陵
石不動
六諸明神
大内山
宅磨塚
北野布施所
恊地蔕
氷室社
婦夫石
大宮
惟喬社
光天石
十禅師社
光孝天皇陵
清瀧河
白樂天杜
極樂橋
惟喬王社 同塔
須美祠
小野篁墳
若宮八幡
浄藏貴所塔
濟信法親王塔
車塚
佛室花見
橘沢宅
安居
山森
若緑松 佛所白
紫式部墳
頼光墳
不動石
宇多野
福王神
地藏院
花園
龍翔寺旧趾

右白虎目録

常盤源光庵
水尾陵 水尾山寺
定家卿塚
辨財天祠
堀抜川
鼎叔孺人墓
臨川寺
大堰川 漁釣林
西行櫻
最福寺
長福寺
西院
細谷直指庵
福田寺
生六道
化野念佛寺
療病院
落柿舍
嵯峨野
後嵯峨院陵
大悲閣 了以碑銘
峯堂 谷堂
梅津花衛門塔
春日社
北嵯峨大覺寺
後亀山院陵
中院觀音
五所明神
三帝御塔
下嵯峨車折社
兼明親王亭
亀山院塔
野依
真如寺
山之内
任吉社
水尾清和天皇社
紀家寺
西行庵
菖蒲谷
圓光大師廟塔
鹿王院
亀尾瀧
法輪寺 細圖
別雷峯
神代三陵
德成寺
高山寺

秀傳庵　宗圓寺
大文臺　御所内
福源院　津寺
藤原兼房ゑ莊　老坂地藏
御靈社　保古羅明神
觀音堂　大原野
長法寺　楊谷觀音
冊屋谷　行道石　院の墓　佛谷　淳和帝陵
業平遺蹟　廣谷
長岡大滿宮　補遺　三尊寺
宿院成就院　白ゑ社　綾喰水　成恩寺
神隊ゑ

寶藏院　野宮　同清水
勝定院　幸林房墳
三宮　桂里
久世橋　伊勢宅
子敦盛塚　蓮生寺
善惠上人塔　物集女永正寺
浄土谷　棄願寺　大日石像　安養心
長岡舊都　皇居旧趾
向町　典陸る　真經る　開田　法蓮禮林
紳足社　勝龍寺
神宮寺　袖招松

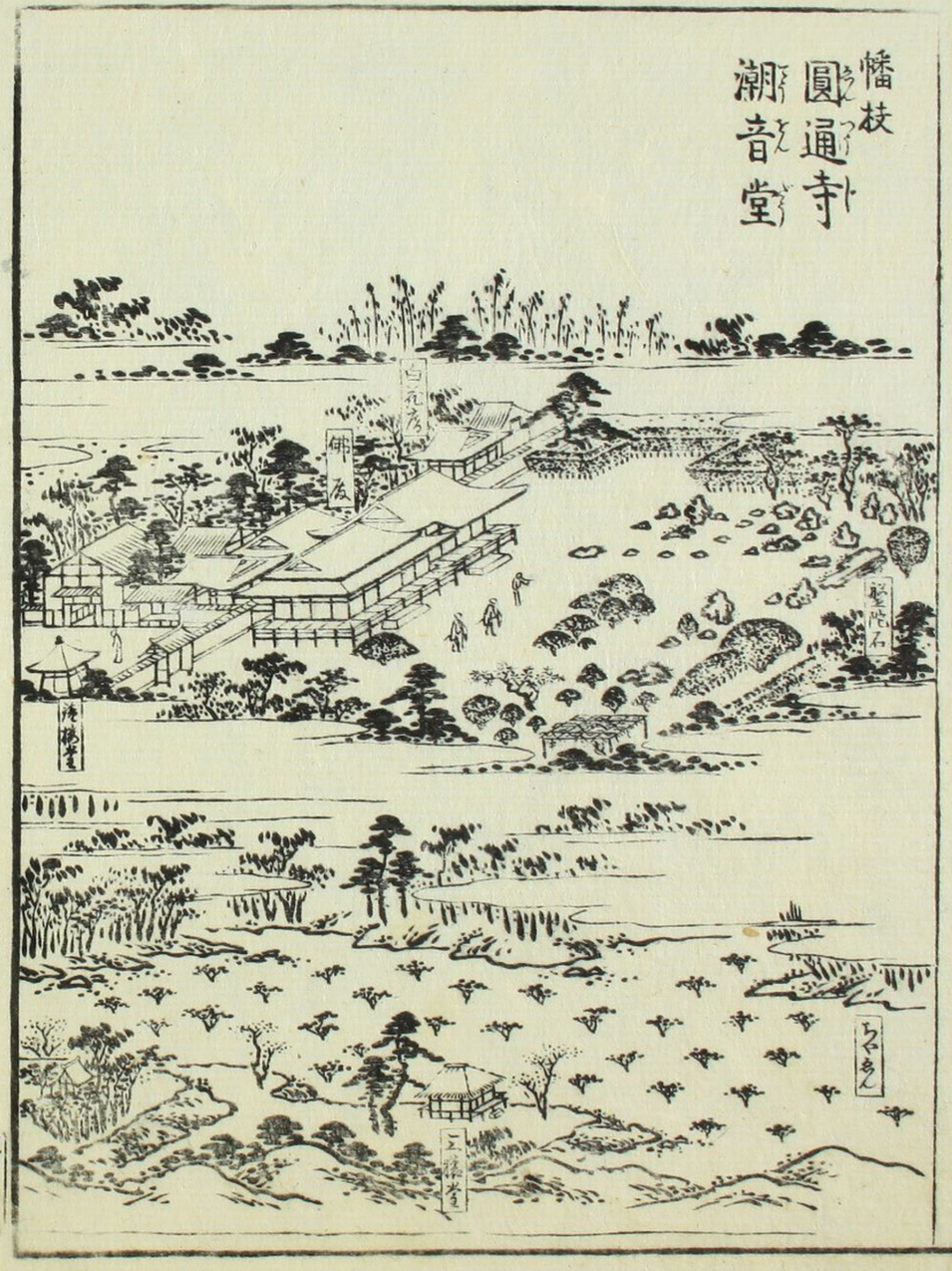
少之免出うしの梅

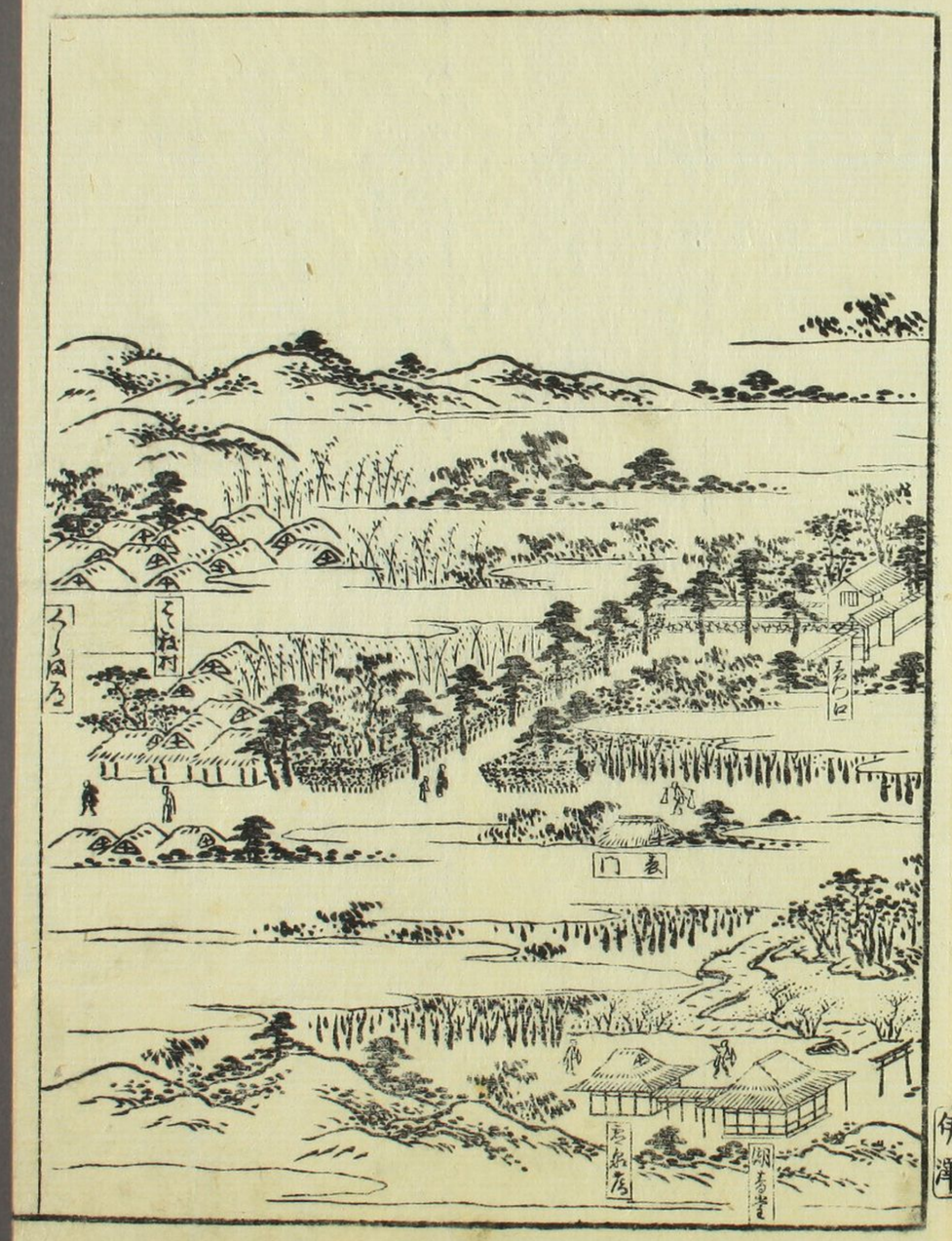
西行上人とちこりの橋の上加茂の堤の南西念寺とて小ふかわく山所堤の下にて光明紙ふり出ふ窪寺ゝもいへ

新古今
とゝ免出う
梅さくうめ
うる
宿成
うゝたも
人ゝ
さうふ
ちを
れ

西行法師

伊澤


幡枝
圓通寺
潮音堂



小野橋 山端乃小ふありて巽より艮の方へ花園長谷寺ふ
いくほど小の橋爪西へ到まて本行城乃小ふ出の方へ行小野
嘆くいふあり恐ふいりく石蔵乃小野の
松津とよめはを山所をほへしらず
時うして麻をふるねと石蔵れ小野の松津に見へ乃る 後九条
松津乃西小岩蔵ふいくる坂のまへ右乃方ののこりて丸山の裾とうづる
梅井 松ありて其西ふおしき井ありこれ梅井乃清るうこと
本木 花坂又ハ素戔嗚尊を祭る本樹を つく梅井の翼 為家
本列坂 梅井乃西小の坂を浴陽より鮮ふ見ゆる人ゝ安の人狐坂といへ
まるうる古老乃いくむりしは山山 樹木繁きて住家の人歩しも
古證文ふ本列坂坂限るとあり 太うしも石蔵大を寺乃境界沿線
花園 小野橋より小十二三町ふあるむうし龍大臣夏野公乃別荘ふよる乃ら
山人百花坂愛せるほくふまて花園左大臣と称をこめ乃地を
今のぬが寺れ地しいふ
後世山地ふうつるとあり 花園ふ本尊観世音ハ智證大師の作九尺計初ハ英彫ふして今ハ府
萬歳山西来寺 霊運院ふ属ふ近年五百羅漢と興立ふ現住了真和尚勧進して大分成就せり
辨財天社 所小乃山トふあり 妙見社 地主神ふ
亀山 本列坂坂越て右蔵ふ到ハ東西ふ二つの岡あり いづれも横小へ長し馬形
亀ふ似ること甲ふ白ひ小ふ白乃小 乃様ふ故ふ生入の亀と称ふ
大豆塚 清菩薩山乃丑寅乃かくりにあり毎年取の大豆塚乃方ふ
お雛を所鬼神ふて山所ふ納むるとひ伝へあり社乃教

あり往古ハ塚乃うへふ 桃塚 大豆塚の西二町ばかり山の
祠ふとひ伝へあり 伊澤
大悲山圓通寺 幡枝村 禅宗 ふあり して佛殿乃本尊を聖観音
坐像三尺 定朝の作 大悲圓通の額を後水尾院ハ震翰形り
朝音堂乃本尊ハ准胝観音 坐像の又西国廿二所ハ観音を安置ふ
山地そ名ハ園光院文英尼公の宅地ふ則尼公ハ園左大臣基任公
乃女ふり寺となるとあり妙心寺龍泉の祖実性禅師を開山
うふ 後水尾院御五位の御時御祈願所ふ成り後ふ御震翰
御衣等ふ賜ふ寺鎮とうふなり同帝行幸の御茶亭あるを
三猿堂霊泉庵ハ門前の右ふあるを五ふあるて園光院塔を本堂
乃云ふふあり 延寶八年十一月十日 都て山地の庭造小堀遠州別
れ好みて東の方ふ比叡山を庭中へ揉寄ふ真好みて盤
陀石とて名石あり又白華ふ佛殿の小ふあるハ桜花数く
あるそ表ハ一入ふほのそ寂寥ふる花の陰ふ都下の騒人群ふて来る

宿鞍馬山
示同遊諸子

澗戶鞍山夕偶投
立壑看枕流鳴石
急臥席近雲寒更
問風塵遠無嫌道
路難明朝謀出處
不必向長安

南郭

く稷晋ゞ醉中ふ迷禅坂愛る相ともしてべき

幡枝八幡宮　號ハ所の世ゴ小山乃上ふあり所ゞ清水とぼし畠村の

栗穂辨財天社　野中村の稲乃天女城安亜ゑ仏王女畠地向の

村老乃爲賜天

くめいむ村老乃爲賜天

つ上ふそ仏の上ふそ鞍

ちろを東方ふ門天の近隣ふ志

りく居坂多門天と誓縁あぼ紙

をすかりち福德園滿乃地

栄ゑんと詔絵くさ先て坂考異乃おゆしと乃して泉議してまり假

殿ふいゞるみ六寸の白紙乃樹を坐せる一村

樹沖ゑとるつけくるを時ふ祈造鎮坐しけるさし坂容人乗

應験ゆをく新亨二年九月九日の疫の亜気をそ

神明宮　ハ所ゑ天社乃ゑゞみ祭祀天照を神社殿の茅葺

いと神さびてめるり乃樹林翁鬱くし鈴の音を珍瓏と

霊園なり

立田社　ハ所道乃春ゆ神ふ

福惜毘沙門堂　ハ所立田の彦ふあり近執た先て福冨を

戦馬寺乃多門天を絵を世乃彦にて門天を福坂ゆ

ゆふ絵る絵諸の人ハ仏所の東乃

苍辻　毘沙門天堂ゑありちれよりふハく坂本船ふてるを右乃方を絵

道式通る之

原にいるちゆをさるり

静原　ちゆをさ乃辻より十町餘ふあり仏所ゑ向ふて

南ふ入てるを人家多し

山家集

ゑゞ乃伯方ゑゆるてるゞ弐名ふあせゆ静原の里　西行

薬王坂　坂ゑ坂伝坊昌俊京をゞ仏所ふ逆来をしゞる

源平盛衰記云

昌俊ハ大原語ふ龍華越坂を通ざ小ゑ坂ゑて後

俊大原より茶王坂を人鞍馬ふふけ龍る己上巻四十六十

之丁龍華越ハ大原の小

迎ゑ語ふあり

小野皇太后宮乃舊跡　舊跡祥る次坂

宇治園白頼通公の　人考あるべし后宮ハ後冷泉院の后ふて

弟之の女之所詣ハ観子

續世継物語云

之君ハ後冷泉院乃女御ふ系つそ后立ゆして皇后宮と中先後ふ

皇太后宮ふありて第保え年乃杖御くし妙後しゆひく后の

位ふそひえの山美姫ゆ小野と里ゑ龍ねさせ名まして都の

外ふおこゆ

そゆ人を下界

白河院御幸書見の行幸あるべしとて供奉
人おこめらるゝ事ありけるに雪のきこえし頃やがて出御あるべきにて面白
雪の朝にのぞみ給へるむかしの人にたゞ野の望を居給へるのゝ
らるゝ所に御随身召具して従者と馬にのせて彼方へ出給
くゆく事なりけるをそれ御車をもてゆき御用意いとゝ
きしだるれきぬ具あるべきなれば十間
ふるまうさまにしてうきをもこれをつゝみて御らんをもよのつゐ
とゆ人をもてしべ望を居給へる書見る人は見えつる事ありけるさるべ
たるみきたるくてなんたてゆ〻ふ座をけて御幸ありて
御車やがて入てそのまゝしばらくおそ〻ゆ〻れを
こえ所ゐんをもめをしれる打乗れをみきてる者二人一人を
院乃打ちふるのちろ〻に金れ立花一をさをうれ
ゝ所ゐるを一人を序口乃洗子か酒所ゐれく

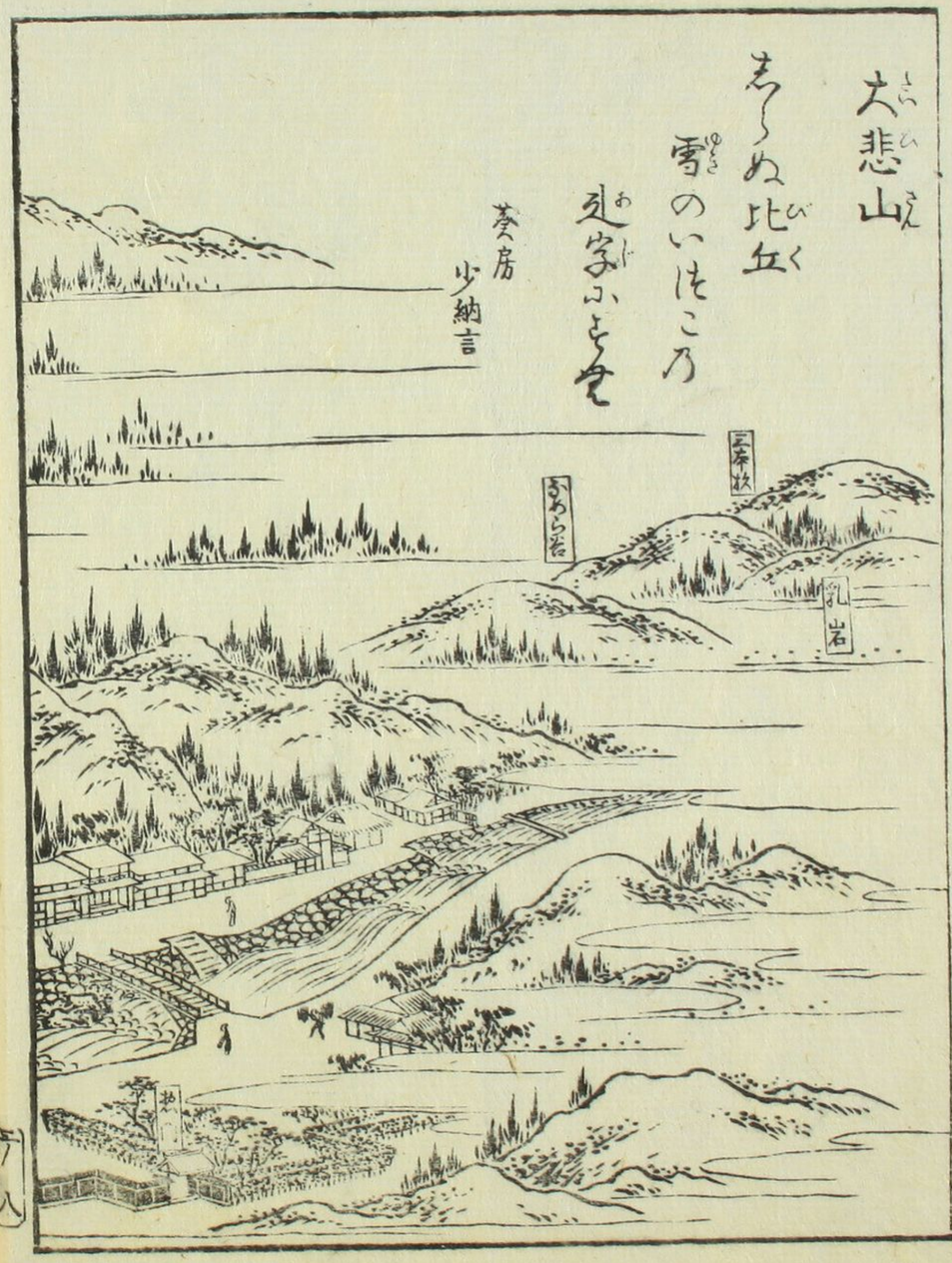
ねゝ二人乃者寝殿のまへをとれこの所をもふをう
そでうをて御車へ乗りるをゐみしを優ふあんこえ行る酒を
うふゝうなるをあるを橋を季通御供ふ所ゐ行々ふ行
りをゝ上皇ゝ人らをゆ物ゝるまに捧ゝくゐゝ
き世みくれゝゆきれをゝ所ゆいゝ勢られゝう
ゝれを只今御幸ゐるゝ所をけまんゝをゝる御座
身ふゐんあゐけゐひゝふ巻十四

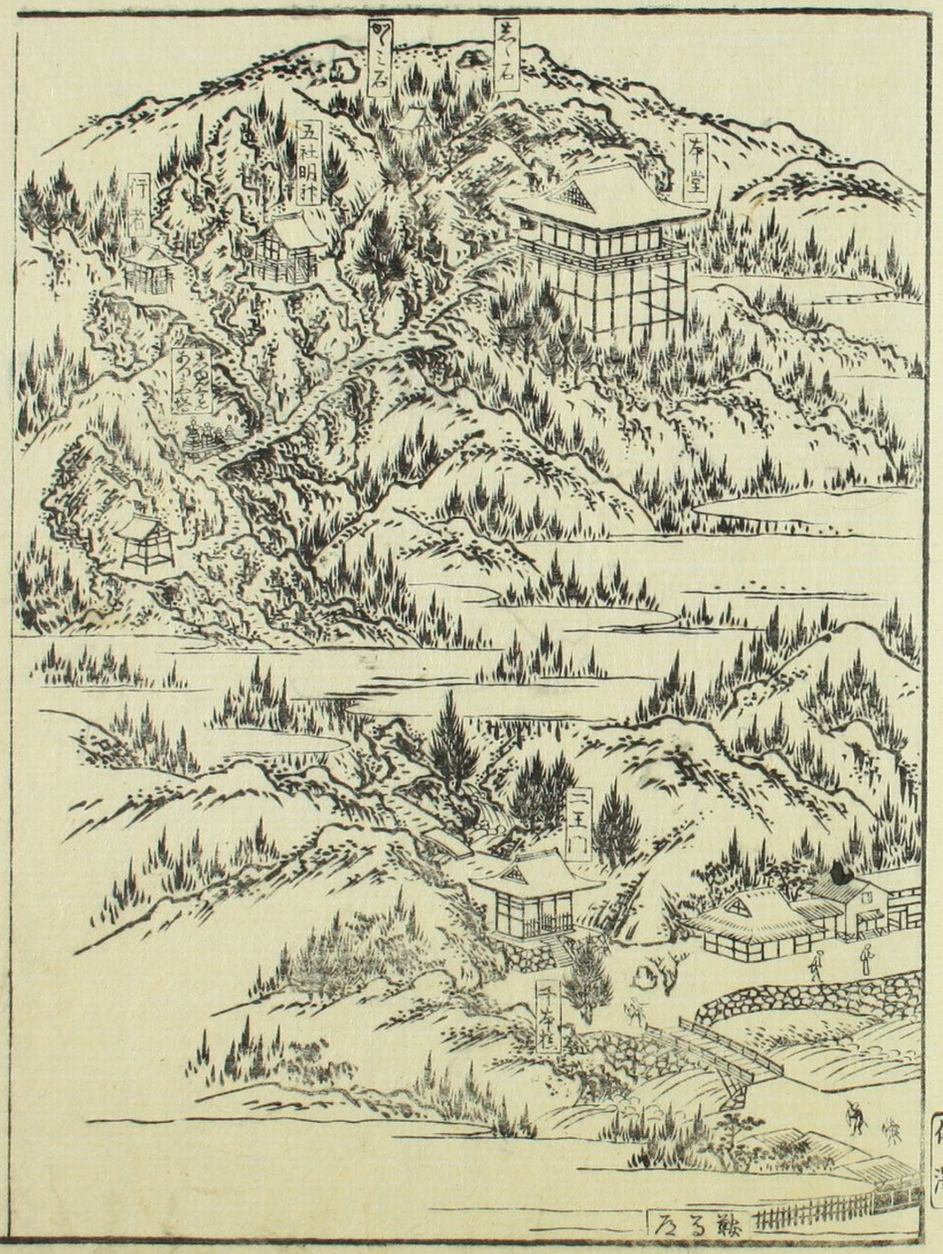
梶取社 二所乃小のゝこ本船の一鳥居のゝこふあり
足洒石 所神松ゐて本船乃やしろふ属に
螢石 梶取の小樹の上の神宇治乃橋姫をめ一会乃
木船の小不新乃多者ふ玉敷る波を螢ゐゐゐ 和泉式部
帰一法眼塚 梶取社乃小半町ゐゐ東の方ふあり足則源牛若丸鞍馬乃
龍王瀧 社小一町をゐゐふあり西ゐゐ蔵乃
雨を降ふ比瀧を本って祈ゐ事奮例ゐゐ

大悲山

きゝぬ北丘
雪のいはこゝ
迄字ふとも

菱房
少納言





大悲山峯定寺　當山は陽の方にして行程十里鞍馬寺より西の方に坂路五里より其中間に別所大布施の二邑あり大布施とは天竺の宗旨を天台にして聖護院に属し樓門を大悲山の下に言なりとして宗旨を天台にして聖護院に属し樓門を南面にして金剛力士の仮安長六尺又余より本堂に登る半十町あまり巖石嶮々として歩しがたく左右は老杉森々として暗く其中間に獨堂あり傷乃石上に小優寛僧都の石塔婆あり又其上の方に役行者堂あり又其上に六所明神社所謂六所明神は熊野三所權現金峯山金剛藏王八幡大菩薩加茂下上貫布禰大明神地主鏡智童子なり本堂は當山乃護法神にして建立のことなり保元元年丙子三月朔日なり本尊は十一面千手觀音唐乃不空三藏の佛舎利なり觀世音脇に白山權現當山の中央にあり

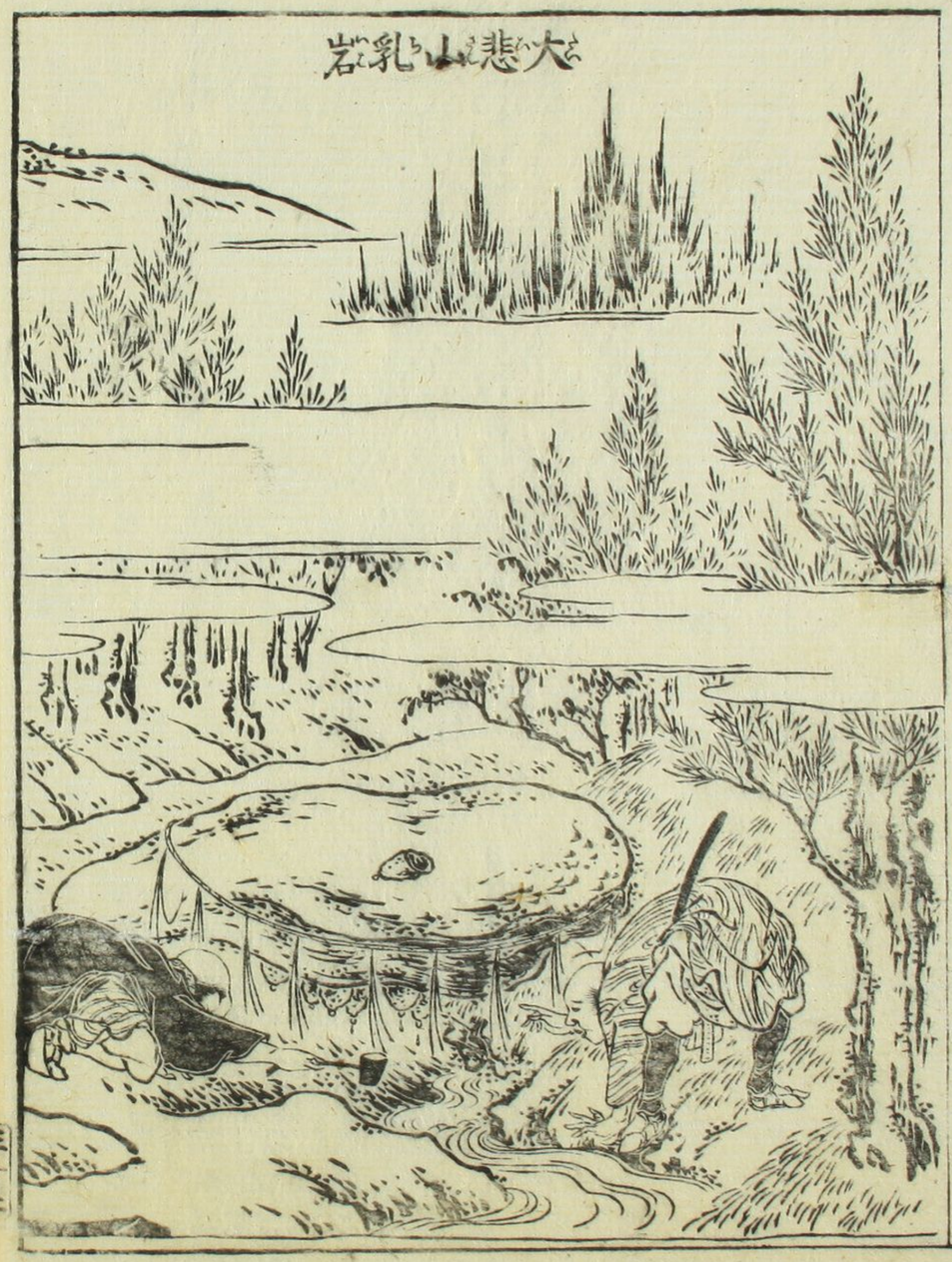
附　基は觀空上人建立の平相國清盛樓乃高欄を造營乃奉行職を記に

抑當山の縁起は如何言信西入道の撰にして文藻粲然たる長章也一代の教主の法説なり者閻窟にあつめて圓案とのべ三世覚母乃衆生を救はしめ之清涼山に並て化道を引き大聖世尊獨霊地を行人争て勝境を捨ん佛子の求願とする所のものは先上正等覚乃遊歴とする所のものは名山大岳乃境之偏に跋渉を事とする所いまだ嘗て寧居せざるに風凰城乃地れかの鞍馬寺の乾の方に一霊地を山脚より山頂に至て往々に奇峯あり連々として相接柏欝茂して昼峰崎嶇として佛子乃地み至て戀々として去事あるに忽茅茨をむすんで栖息もろ事尚し其山の躰光尋往詣乃便おのく止宿止所定て宛驛亭乃量程にて みるが如し山外九品乃峰を蓋安養界に擬に第一乃宿峰霊と号にされとあるの宿と称に第二坂を盤手向と号に第三坂を小屋居とるく山宿乃西に崇峯あり第四坂阿弥陀山と号に次に奇次に小一の嵩嶺あり善覚山と号に中品上生に象はうり第五坂眼覚保土と号に中品中生に象はうり第六坂無原と号に次に奇峯あり尼振山と号に次に崇岳あり離苦澤土と号に上品下生に象はうり第七坂水飲と号に次に奇峯あり真色澤土と号に上品中生に象はうり第八坂平地と号に其次の峯坂真覚保土と号に下品中生に象はうり第九坂滋本と号に次に峯あり無漏澤土と号に下品上生に象はうり第十坂文殊嵩と称に峯に一巻石あり其狀獅子の如し次に峯坂乃大日金輪佛頂山と号に峯に至ては大佛頂おのおの諸乃陀羅尼を誦に

長杖を奥ふかく
出たる雪中小軍
ろう谷へ落ちとし
ける事 謝恵連が
雪の賦ふを
書洩し給ふ

ある沢乃峰を大悲山と号に
大悲山は数峯乃中臺なる石窟あり也ふ一霊石なる
其狀鸞鏡のごし千手観音寶鏡乃御手なる大悲山の號蓋なるを
もを仏高く掲げて人幸を祈れ天地蟻壤ふ嘲て遥海ふれを望て眼路を遮ぬ之百谷牛峰ふ編
てかの石窟の中央ふ南て仏堂閣の基跡を留る寿元甲戌年二月
三間の堂一宇を建立し白檀二尺乃千手十一面観世音菩薩の像一
軀を安置し奉る佛座の下ふ石寶を水の滴く事究擔留のごしを
もて閼伽を供し瀧滝ふ充一尺三寸乃不動明王五寸の二童子像名
一躰同じく毗沙門天の像一躰ほ年四月ふ至て　仙院鳥羽院　勅命
降て此像を請しまるる人恩不意ふ出く事ふし鄭重あり歓喜踊
躍隨喜悦豫をむの不空三藏れ佛閣を営ふ人足粛宗皇
帝乃仁恩之今貧道比丘乃粮廬を建る寧禪定法皇れ敬意ふを
もを三寶ふ帰して萬邦を治を六度を以て四海を撫ゆ古今ふ稟かく

和漢ふ類ふし若利生を我后ふ仕をんば必先縁の比丘弘願を発乃事を以ん
若善根を此ふ殖をんば何のごとるに孤露乃少僧素意を果す事を以ん
幸ある哉く抑善根の負意を志ものくふ乃ると其一ふ曰今生大佛頂陀羅
尼を誦して来世ふ一切衆生乃死乃重病を療じ其二ふ曰早く西方極楽
ふ生まれ生をんを我得て還て仏巌崛ふ住しを通力を以て法華経ふ
よび一切乃經論を誦を其聲法界ふ達しを聞くものかるに利益
を蒙らん二途の願大概かくれ此し弟子むり弓馬の家ふ生まを因果乃
理を辨を事ふし畋猟を事として業を漁釣を事を以春龜サ一忽て
親父を喪ふの時ふ南て親父身子ふ命じて曰平生の悪業来世ふ苦果
を顧を何為ぬ方便をめをし解脱を祈るべし身子一さび新事を
聞て刀釵胸ふあるるを此し行年廿五善縁忽ふ催し首を利て衣を染
ちしより難行苦行念々歩々を父の何の所ふ生れん事を知らんと
をび造次顛沛も我父のごを仕苦を受るる我如んと期を丹誠一心を


大悲山乳岩

三女枕
乳くとふとちろ
さぐれ石
捜を
をの乳母乃
名を
お名しのと
斑竹

盡し示念二年に及て夏中に父の貌彼見る身は馬面の人其後二年を歴て
然弥山那智如意輪堂に參詣をそて又夏想を祈父面の人身は獅子其後十
一年祈經て播磨國八塔寺に修行を蓋十一面観音乃霊地と夏中に
観世音告て曰汝父をそ示浄土に往生を前後三夏仰で信をるみ者子
平生のも業紙墨み存をるの如法の儀式にをりて妙法蓮華經八部祈
書寫し一千五百日祈限る次久しく常行三昧祈修し又常行常坐乃兩
三昧を修をる千六百日祈經歴しみ三千日祈劇て八曼陀羅香祈燒其間
常坐三昧祈修し心神全く動せと然外大峯に修行をて三箇年を送る
自餘の少行委く記をに遑あらず後又祈父夏中に来て告て云汝常に
山林にあるべし敢て聚落に交る来ふりし於戯山林の睡眠は如来ふりしと
讃嘆のし聚落の苦行は菩薩ふりしを詆訶ふ人誠哉斯言干時
久壽三丙子年仲春二日佛子西念恥由緣を記して来業に貽を也

少納言入道　法名信西

○乳石　當山門おより南十六町ばかりに谷あり人跡稀なり乳石の狀表平みして裏は方に
乳房十四箇所おのく乳頭の貌を婦人れ乳のし其乳頭より乳水柔
滴て落る乳を見る婦に乳水を飲せば忽乳汁出るとい一年若狭國
乃者此所へ来り岩の乳房を磋て家へ持ゆきしに忽悩乳しみ
大に崇祟をなしに所へ返し置る其乳房石は岩上にあり
當山に於ては乳岩明神と崇免護法神と云華表は乳石より二町とり
に形ふあり都て山原谷嶮峨みして樵まも歩しるに不知案内みくも
見る事恐ひぐし乳石谷二町とり入と三本杉とあり大木
みて又頭ひ稀と

本艸綱目に石鍾乳とある類と又云うる又石鍾乳の説
區なりとも其一二を摘んて云ふ峯に石鍾乳は大に山の源谷
に生ぜ石乃津氣鍾聚て乳とする又滴溜て石とする故り石
鍾乳と號く時珍曰桜とる云范成大が桂海志に説ところ甚

詳明之云桂林に宣融山ふけく洞穴の中石鍾乳甚多く懸て
石脉漏起る處に視れば即乳狀あり白うして玉雪乃ごし
石液融結して乳牀下垂して数峯小山を倒るがごし峰端
嚴く鋭て且長く氷柱乃ごし杜端輕薄中空ふして鵞翎の
如く乳水滴瀝して已に且滴て且凝るもの乳の最精さもの
竹管に収て仰てこれを承取る下畧慎微曰柳宗元崔連別に與る
書に云石鍾乳は草本乃精なり土に依る之の陰陽に居てあるひと
本に近く石に附てあり其性移りて直に石に產に石精粗疎審
尋尺時異ふして穴の上下土の厚薄石れ高下其產をるりの
固に一性なる次然も其精密ふよりて出るもの則油然として
清く旧然として輝あり其穀滑ふして夷之其肌廉して微なり
これを食べ人をして榮光温柔なるごとし其氣宣流して胃
故生し腸を通し壽老廉寧あり時珍曰石鍾乳は陽明經の

氣分乃藥之本經曰歓逆上氣を治し目を明ふし精を益し
五藏を安じ百節を通じ九竅を利し乳汁を下す別録曰氣を益し
虚損を補ひ脚弱疼冷下焦乃傷竭を療し陰を強くを久しく
服をれば年を延へ壽を益し歓を好して老せる婦人を治して
子あるごとむ錬せずして服をれば人をして淋ふるごとむ又曰
乳汁通ぜざるに鍾乳粉を濃煎して用ゆあるひは通草と等分にして
末にして米飲に練丸して方寸乃ヒにして服をる毎日々に三次必驗あり
抑當に之を粒峯回抱して五嶽の嵩に廬に乃金芙蓉とひいべし
周に観空上人の塚は代後に古あり今も讀經の聲風に響し耳底乃
客にうりぬこれを訪ねて山中に入るを松間乃あるごとし溪の水音と響て
で訪ふ都て地勢は峻々として高し故攀登ふ石角に衣を鈎裂枝に
首を止む常に啼鳥稀みて庶乃音は林巒乃淋しきを解れて山
堂乃眠に覚を猶は多くを風に吟して峯に本ばこしあるひは

新古今
後鳥羽院御時
うのそのことも
大井川ほとりに
ほかれゐる
ものとしらずや

いそしよ
もそこ
ゆ上へ
いそうの
やしの
あしそ

花系資宗

彩河のふるれ絶えて
たゆもそこのみなそこ
其水のちくるくるく
大悲心乃奥ふる溪川ろ
大木伐伐しくく木を
大井河ふ落とおろり
とまてくもゐ海經ふいて
水神陽侯のちくるくや
いてべき

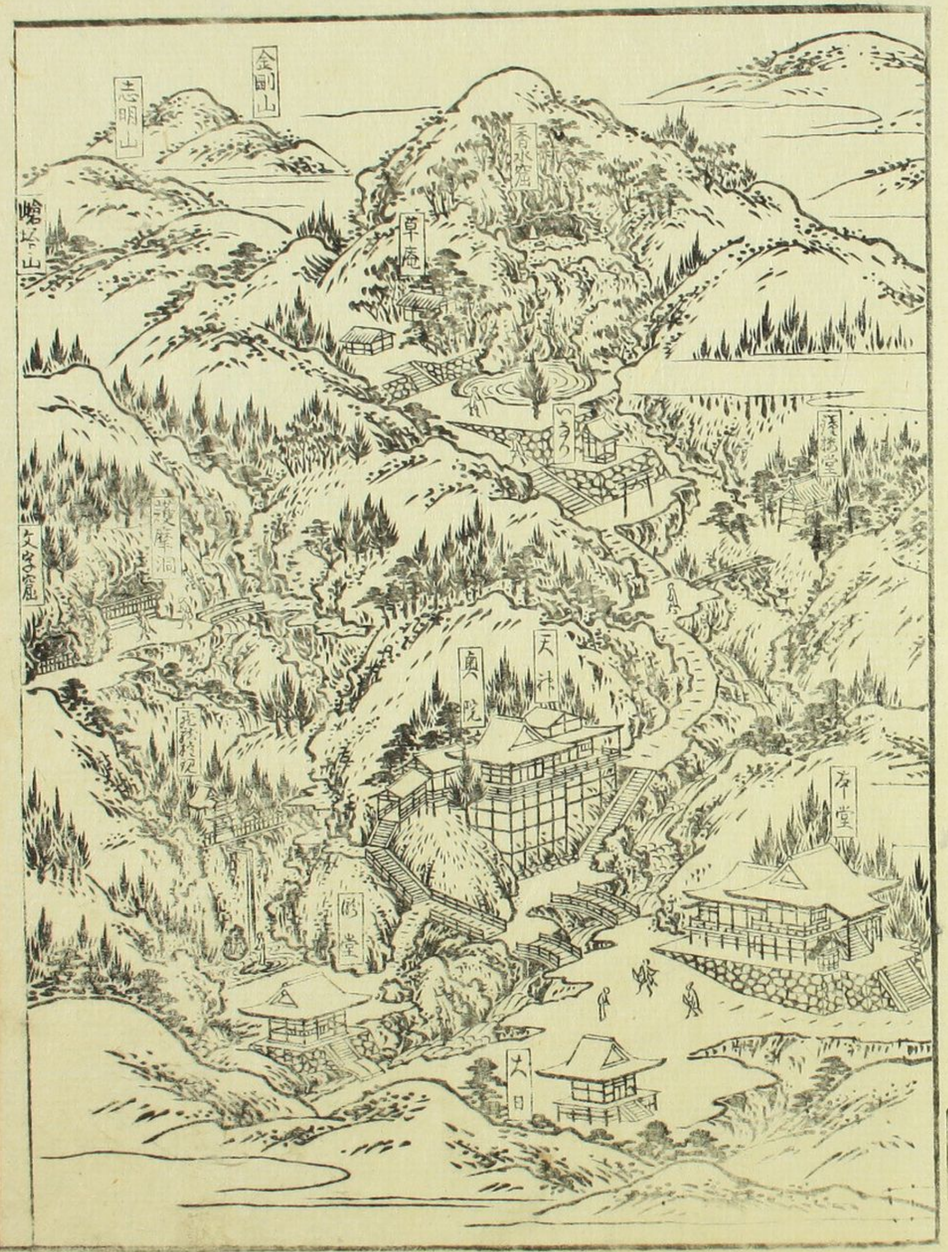
月ふ嘯てそい斷腸のこひとのごとき玄冬れあしふを香保くしく
数天ふおよび鏡石といふを當ふの嶺ふあり至って峭壁みして登ほ
幸ひしてこの門おみい樅の大木ありて株の半より数十本ふわれ
おのく直ふ生立ぬ之當ふ乃小清谷といふ所をむり後寛保
の室家一族ちてみ思ひ住しといふ今も當ふ本堂の下ふいかの
一類乃塚あり九町坂ハ谷を隔く南の方ふいみへの往還みて勅使
も ふ道より東麓しまして ふ坂の登り口ふ天満宮鎮坐ほまた
ちれ祇知所路天神とうげく今ハ路堤を艸添して通ふ者稀なり
久多瀧を遠ふ奥ふみて飛泉数丈ふ所所ふ上ふれ一の行場みて
今も参りてハ此滝より幻現しまるとふ人のやたふ城丹波の國堺を
當寺より半里ばかり小あり都てふ地の名春ハ邪所大布施より
出て常ふふ中を捷て農業少く樵多くして所々ふ炭竈板低つくく
煙絶ぞ女ハ炭薪祇首ふ戴き牛馬ふ付けて鞍馬の市ふ運ぶあるを

庶の板柱板皮屋石（並ふ鞍馬石といふ）等形ふり
花瀬峠（鞍馬乃小ふあり山間ふ唐櫓岩といふ大巖あり高サ九五丈餘之
寄生樹あり至って大木ふして裏表ふ苔ふ乃樅の形ふ似たり又樅乃樅一本みて枝数十ヶ所
ふ立ぬ之ふ祇ふ本捨といふ山所ふあり乃系数更みて千巖秀を競
ひ為ふ土流もを
年ふの名勝なり
車坂（上加茂より乾の方十四五町ふあり山坂を車坂といふ小野ふ閑居しまるを山所ふ
車祇山所ふ糞捨ひしまるを故ふ山名ありといふ）
滿樹峠（車坂の小半里登り来中里
雲畑（峠の小一里餘ふあり足より小の方村里乃總名之口畑中畑河中畑出谷
奥畑等之ふ）
牛若丸宅地（中畑ふの東南より鞍馬へ越る山中の中間ふあり牛若丸山所ふ
詳しくハ今古松一株あり）
惟喬殿若（中畑村總堂ふあり九龍山高雲寺といふ寺あり惟喬親王乃
設ふ旧跡なり大般若經并同經説相畫圖維摩一軸あり
雌鳥社（出谷村の小ふあり祭神未考みて雌鳥山所ふて霊しと故ふ山名みて
岩屋一鳥居（出谷村乃小ふあり往還乃中ふ立て乃人其中祇通る乃
額紫銅をもりて岩屋ふ鎖て小野道用れ新なり足より
岩屋ふまて十六町あり坂路乃左右より樅多し
樅祇所寄附あり）

岩屋山金峯寺 出谷村乃ふあり滋賀乃五里一町居り十六町あり 真言宗にて樓門に金剛力士坂安に額に岩屋山と書して 後奈良院乃震筆乃額堂崖造りにて本尊不動明王 立像五尺餘 弘法大師の作乃脇士に毘沙門地山脇にあり 藏尊坂安に又脇壇に弘法大師の像あり大日堂を本堂乃西にありて則大日如来役行者坂安に

抑當山に久代天神醫道乃祖神藥王薩埵と化して出現し給へ靈場なり其後 孝德天皇の御宇白雉元年に役優婆塞と名て御道坂踏まけ山に登り敎月禪定坂後し藥師如来の靈告をうけ當山坂開基に又願后 淳和天皇の御宇天長六年に弘法大師に山に登りまして神童出現して曰為る者を待年久し早く二密乃秘法坂後し王城を鎮護し且一切衆生乃願を成就し病惱坂拔助しめんと敎へつまい當山乃守護神なりとて飛龍と化し忽瀧に入給へ是にまして大師龍權現と崇め瀧のうへに勸請しまつる

雌社
岩屋鳥居


金剛山
志明山
嶮岳山
草庵
天神
奥院
存堂
大日

岩屋山金峯寺
本坊
二王門

権現の尊像なりて大師これを不動尊坂彫刻し一千座ハ護摩を修し
給へる是當寺乃本尊なり
○奥院本堂乃うしろ乃巌上ハ遠崖造りくゐ白なり本尊不動明王立像五尺餘宇多天皇ハ御願即位乃節ハ勅詔ハ為て寶祚延長
ハ為て菩神の御化なり代々天下安全の御祈禱して御戸開あり
○天神宮堂前乃當ハ乃鎮守とし給へ遷宮乃時桜一株一夜ハ生ル
故ハ桜天神と號く
○飛龍瀧本堂乃後ハ岩屋瀧とも称ス瀧乃うへハ飛龍権現乃祠なり又
瀧壺のかたらハ飛龍童子乃彫白石あり風狂の者當ハ一篠を
本尊坂礼拝し瀧浴を本日毎ハ二度ハて平癒を祈ル効験なり
○弘法大師護摩洞瀧乃うへハ山所ハ大師密法を修し給へ是ハ餘
乃洞窟ハ山々乃石毎ハ經文鮮ハ居ル是大師ハ所化と又
○香水奥院の巌窟より滴出を茅王薩埵ハ水を穿出しく法華坂
灌頂しの人を志ルハ為て其香今ハ於て自然ハ薫ル事なく病

苦乃者志ルを服ル金ごとく本朝ハ未代とハ人ども此香水乃響
世ハ高しハかの薩埵仙人ハ化して諸藥坂調しめる舊跡ハ上ハ
○役行者座禅石樓門の左乃方ハ高サ壹
それ當ハ山を豐嶺巍々として漢乃劉阮ハ藥坂採し天台ハ乃面
紀あるハ山洛邃ハして白雲を封ず花船寒ハして峭壁ハ翹る銀河
乃三千尺もあるみ見人てあるハ花坂誘ひ紅葉坂連て蕩
洞の水ハ山々と岩ハ流れて若鉛汞ハ昇ハ類して山々を
石室岩洞多くして壺中ハ天地を縮免神仙のおのづから家
ある乃寄境なり
桟敷嶽岩屋の北二十町餘山所四面みな山ハ嶽ハ其上ハこれ
あり是則惟喬親王遊覧眺望の高樓あり所之山地の南北方
一面ハ晴て鷲峰笠置の翠嶺生駒葛城の高根あるを難波津
乃ハてまく眼中の客となるぬ絶頂ハ地あるむるなる山地ハ於く

土器金具乃類様々の器物城堀出たれども家に採納きい怪異乃事ありてあるひハ悩乱しあるひハ狂惑して大に恐怪をえの地み送を亟て是則ち乃親王の沛所に用ゆる調度なりとて又云むら
ゝ山地に於て鶏鳴ありこれ由緒なきに又ハ荒麓の林の中に
三本竹とゝあり其左杖のぬしに三本生じて毎年三本ハ年ハ
生じ其長ゝ丈ふおよんで初の三本おのづゝ枯ハ是親王乃鞭ハ
さゝゆゝるゝ今に生ずるを又ハ南れ山脇に岩間より清水涌出る
至て清泉にして寒暑に増減なし是ハ親王田猟し給ふ
時ふ山水飼し給ふ所之故に名乃水飲と号とふ
さしで樓臺空しく朽て千歳乃むなしと成りぬ薄荷萱
茫々たる花げ鶺鴒乃聲こゝに訪くに風ゆ鬼火も変じて呂
林風のこ蕭々たるこゝ今に於かゝる次
小野 岩屋の小二十町餘ふあり小野ハ在号みて中ふ粉村あり東ハ内 西ハ内
上村中村下村 真弓 細河 狭城等あり

小野 篁社 齋ケ峯乃西に長坂を経て東ハ内民居乃坤二町だりにあり
祭神小野篁の霊なり生土神とゝ例系九月十六日神輿一基
篁傳 参議岑守乃男にして左大辨従二位なり承和三年二月に
配流せらるゝ原波国に遷ハ同七年四月勅許を蒙りて帰洛に同
八年閏四月本位に任ぜ仁壽二年十二月廿二日薨を 五一歳
落葉宮 下村民居民一町なりふあり系神 相木湯門が山なりけし女三宮
乃霊とゝ生土神と例系九月十五日 神輿一基あり
御栗栖野 西が茂大門村乃西の野を云所いゝへ大内裏の対察の沛馬
乃稲を生を所之故ふ沛の字を冠らしむ又ハ名花ふの南ふもあり
源氏物語曰 くるを待のざゝをこのゝん沛馬草ゐんとゝくのゝ世と云
氷室社 紫竹村乃小二十町餘氷室村ふあり系神 未考ハ所ふいなる南に
氷室 氷室坂あり四面ふ山ふして境方嶮岨なりいゝへハとゝろふ
をのひむろれゝふ結てのそ花ゐひる
千載 下さゆる氷室乃山のとそ揚焼結てゐる雪ゝとそ見ん 源仲正
同 わゝらさん流ゝゐる氷室山ハ冷せし水の涼るのゝゝ 大炊沛門 右大臣
新續古 限あるとゝのゝ雪乃ゝゐる日ゝとそ見る社家の山乃下ハ本 順徳院
延喜式ふ云ふ氷室ふ城ふ及び諸国共ふ五百九十六所之
當國氷室乃地多くハ廢して今絶遺まゝ

棧敷嶽

棧敷嶽

惟喬社 東河内村氏家乃南にあり祭神親王乃御霊なりと云所の生土神とする例なり九月十六日いみてへを祈願遷幸し土人癒れば形相放盡して以来ぬ今断絶を祈願に同所安樂寺に納む

○惟喬親王傳 文徳天皇第一の皇子にして母公に従四位下静子紀名虎乃女之親王小野に住居し故に小野宮と号し貞観十四年に出家し法名を素覺と云同十五年二月廿日薨じ給へ二十六歳

惟喬塔 同所長福寺にあるなり十二重の石塔婆なり

山森 西加茂川上村乃艮鴨川乃中に小社あり祭神惟喬親王なり鴨乃宮に属す

二子塚 此乃森の西南田間に婦夫石二子塚より艮鴨川乃あり由緒不詳

須義社 同所小乃端より二町より南氏家乃西にあり祭神未考例祭毎年三月十日此日祭礼今廃乃やうに帰者所乃土人申伝へり一説に勅使ありて其後高雄に法華寺の縁ありて高雄山あれば高雄山に移編ふつくしく美本集を行法師わかあり高雄山あれば所真珠庵村の東南にあり大なる古松あれば其本に小祠あり祭神若緑松 日所本船明神なり一説に拘い遊しとや伝へ百合艸若丸の宅地と常に愛る丸と云へ鷹あり拘い遊しとや故に名とす

御所内 同所乃小田乃字百合艸若丸の宅地なりとも

小野道風社 小野庄坂村にあり正一位武大明神と称す土人生土神坂岡に移小野道風を祭る城の囲に於て當宮一社のみ仕て日本三跡の一人なり敏清あり年日本略紀曰大内裏藻璧門の額天徳三年五月七日本文の頭小野道風書をなしたる康保元年に卒を年七十一

小野神廟八詠

工部芳聲 武神祠 大霊祠此 屹然臨池千載業 龍公美 誰復繼斯賢 明王堂

寥々杉阪傍 和香水 樹鬱明王堂不見塵寰色 平信好 梵音風外長

香水 和香水 盥漱井 藏山頂炎旱曾不枯人言傷唱客 芥嗽 即神 林義卿 神蘓

道風 思君橋 千載久書比晋人 芥元登 賛欲吊墨池古 先臨盥漱泉

一橋架峽岸臨眺自清奇恰擬半輪月 積翠池 思君在峨眉 高道昂

淺深 長公川 不可量朝洗僊人掌木末含芰荷翠色看來長 大江資衡

風流 季子山 野長公墨妙孰爭雄欲見威神赫 原泉滾々通 江邨綬

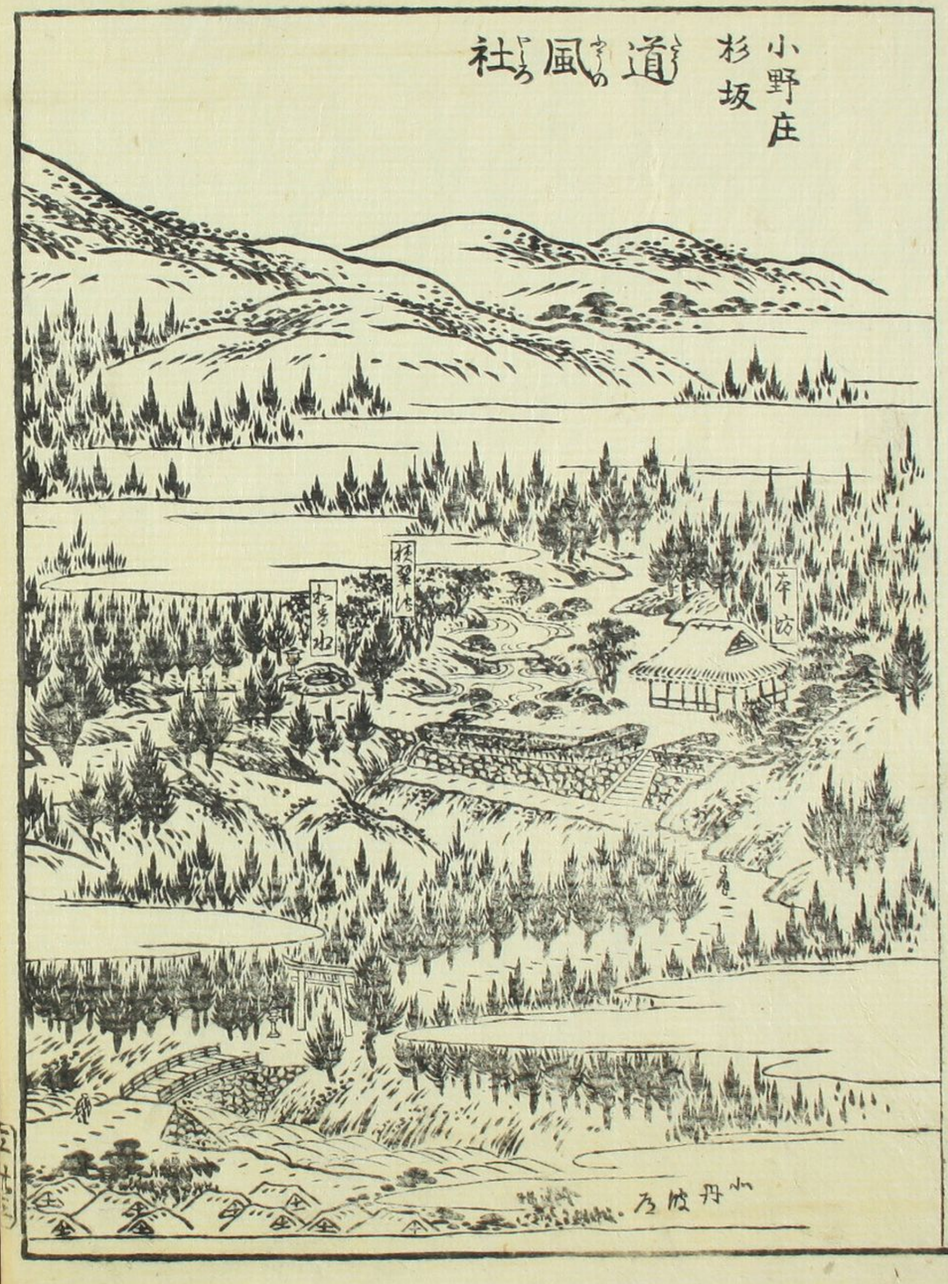
諸山 伯仲季 相子最蒼然誰逐延陵跡遊家耕石田

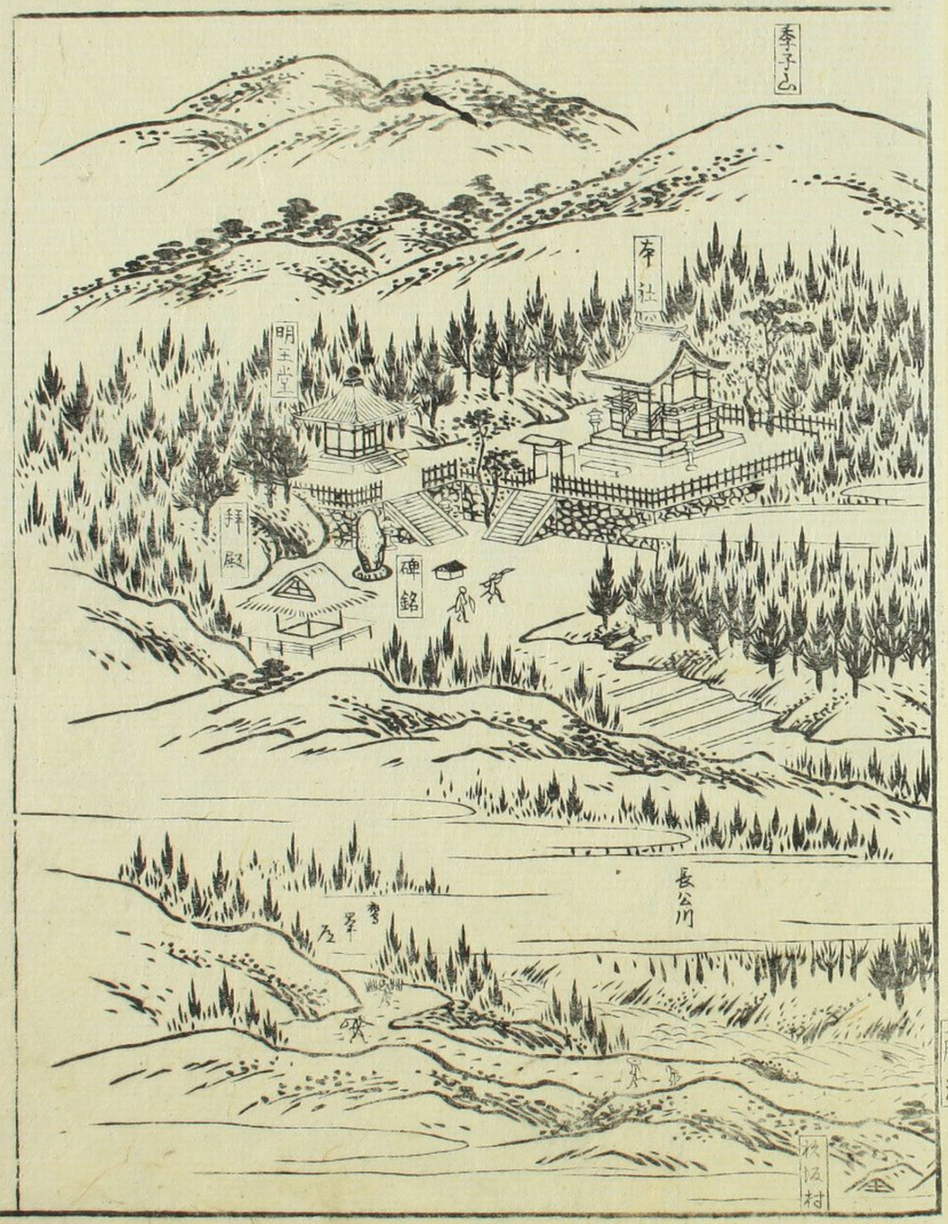
和香水碑銘

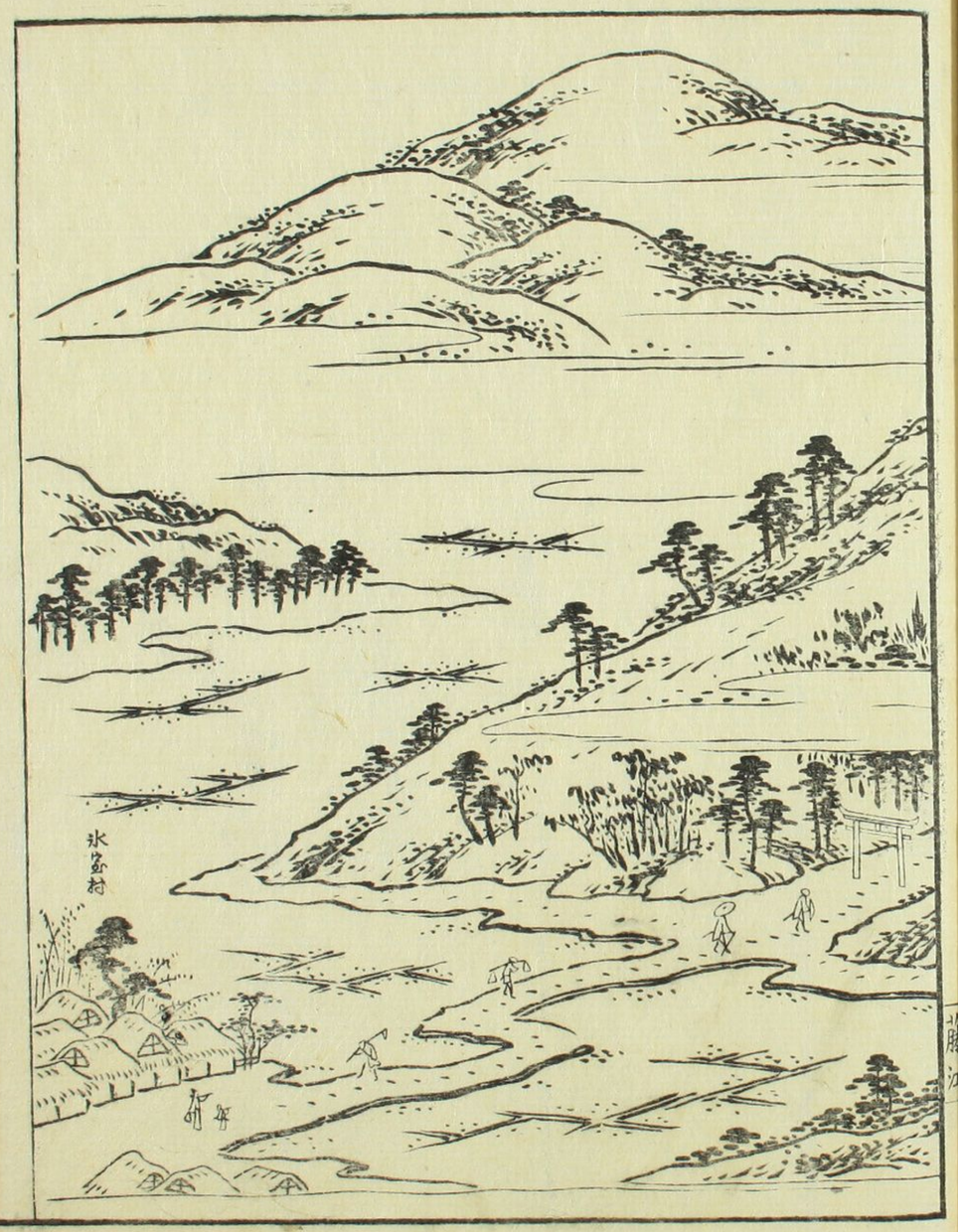
嵩沸霊泉杉阪之巓維神爰臨令德彰宣載伏旱魃迺利蜿蜒千歳雖邈厥澤綿綿碎公斯挹式肅式顯迄用不竭萬億秭年

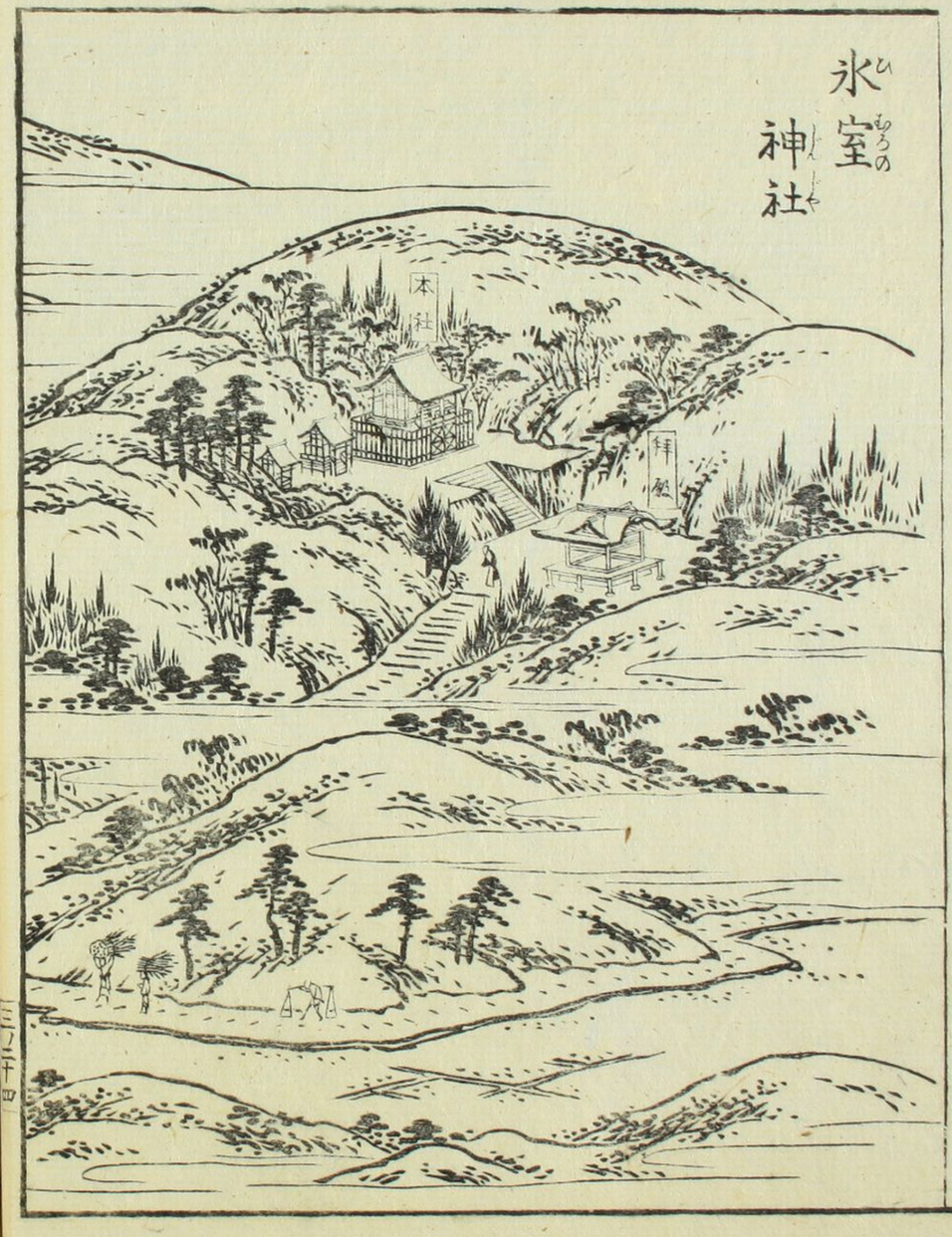
明和庚寅孟夏望 井澤善興篆 大江資衡撰 近藤正信書

小野庄
杉坂
道風社






氷室村


氷室神社
本社
拝殿

大宮（紫野小茂ヵ）ある所神社なり
小野篁塚（紫野雲林院卯辰の方二町とり畠乃あいだふあり）
紫式部塚（上ふ墳あり。花鳥餘情曰紫式部ヶ墓所を雲林院乃西より。岷江入楚曰宇治の寶藏寺院白毫院乃南小野篁ヶ墓の西ふあり。）
乃日記ふを紫野雲林院ふをよりうんりんいんとうしきぶハ極那院僧正乃
許可状ふて天台一心三観の血脉ふ入まを奉てより雲林院乃
歯困状ふ志めるるも奏ゆ人あるあや
天皇塚（雲林院村の東ふあり一説園融院の陵なりとい）
惟喬社（雲林院の南今宮市旅所東の路のほとりふあり傳云むかし山所源頼光の居
若宮八幡宮（市旅所の西萩の中ふあり）
館ありて其地ふ和泉乃南西ふあり俗云
頼光塚（船岡山乃南西ふあり源頼光塚なりとて）
石不動（金剛寺ふあり本尊の不動明王ハ立像六尺二寸脇士ハ金伽羅勢多迦の二尊も立像ありて高麗大あり共ふふるとて
俗ふ足弘法大師の作なり安倍安堂なる所ハ岩窟あり又堂内の地蔵菩薩ふ寶冠の釋迦佛ふ不動尊ふ安倍足智
大師の作と山像頭髪なし
利がやくなり

浄藏貴所塔（金剛寺乃門前ふあり）
不動石（金剛寺ふ鏡石より一町とり）
六請明神社（金剛寺の南玄蕃丘乃長林の中ふあり）
十禅師社（龍安寺門乃西ふあり土人生土神と云ふ例祭ハ九月十日）
仲和寺濟信法親王塔（右のやしろふ小二町ばかり）
宇多野（仲和寺のかくらの大内山ふ仲和寺のうしろれ）
光孝天皇陵（仲和寺山門乃西一町ばかり）
車塚（山塚の道乃西ふあり）
福王神社（仲和寺の西福王寺村ふあり）
宅摩塚（梅尾明恵上人ふ仲和寺の西二町ばかり）

の二神常ふ擁護をかへり
無ふして上人と話答乃聲あり宅摩あやしうそれを不山ふ時々
春日住吉新白あり宅摩寄感して障子の間より
窺ふ兩人坐ふ光相ふ衣服等よのつねふ異なり
執く護ふ神相ふ宅摩帰京の時ふ所ふ
おかて虚馬して死を是即凡人神相ふ写ふ真罰ありしを恐ふて
小塚ふ祭て
験とるべし

清瀧河（梅尾高山寺門おの麓下のなれと和源下小野より出て山地とな
ま愛宕乃藤ふ歴て大井川ふ入る）

沸室花見

新古今

花の香ハ
衣にぬくく
成みゝ
木の下陰
風の
ぬくく

貴之

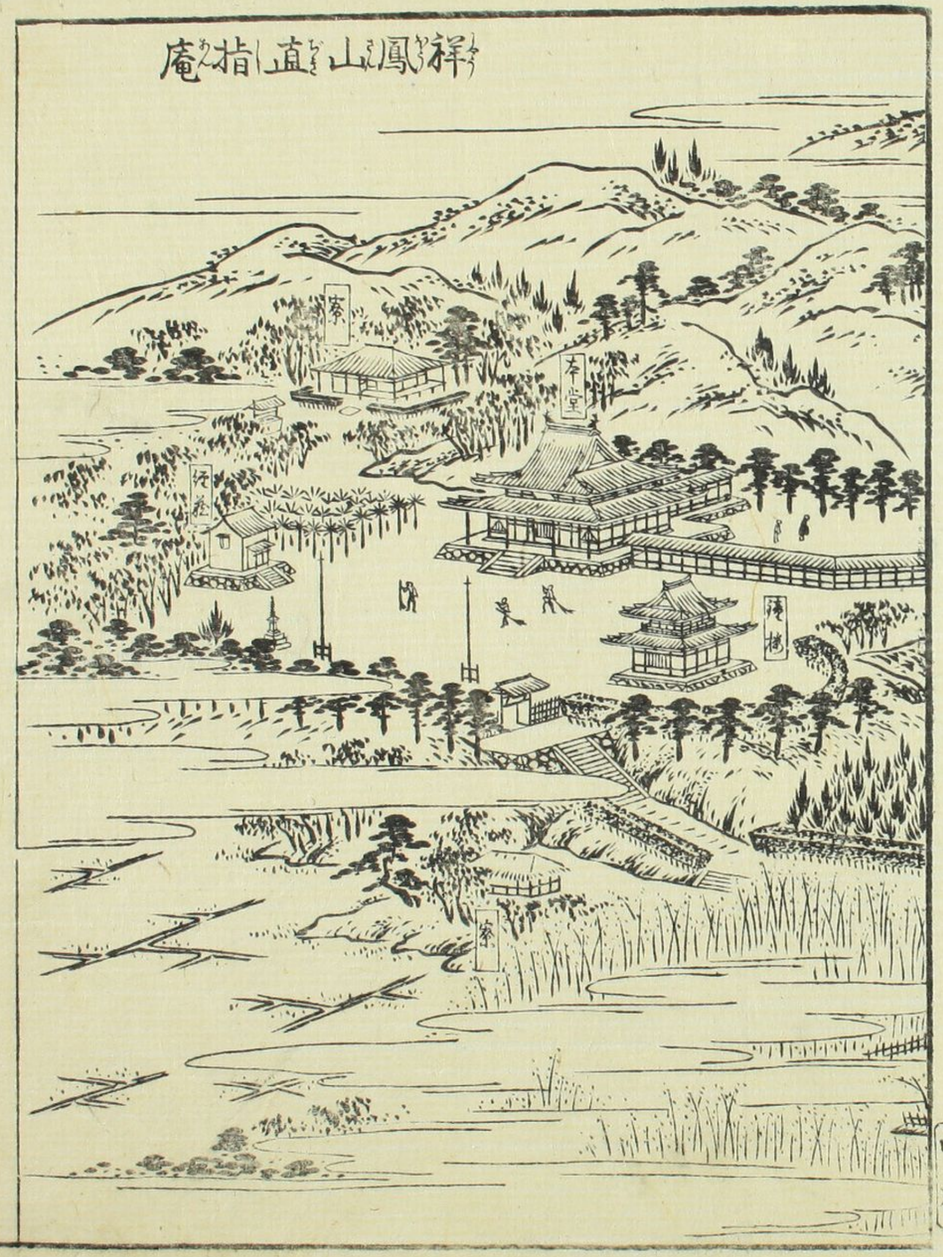
地藏院 紙屋川乃西ふあり 阿弥陀佛 南の小堂ふる
地藏菩薩 洛陽観音めぐりの其一ゝ 安に行基の作と聖観音と安に慈覺の作と
身三十一番のれ所なり

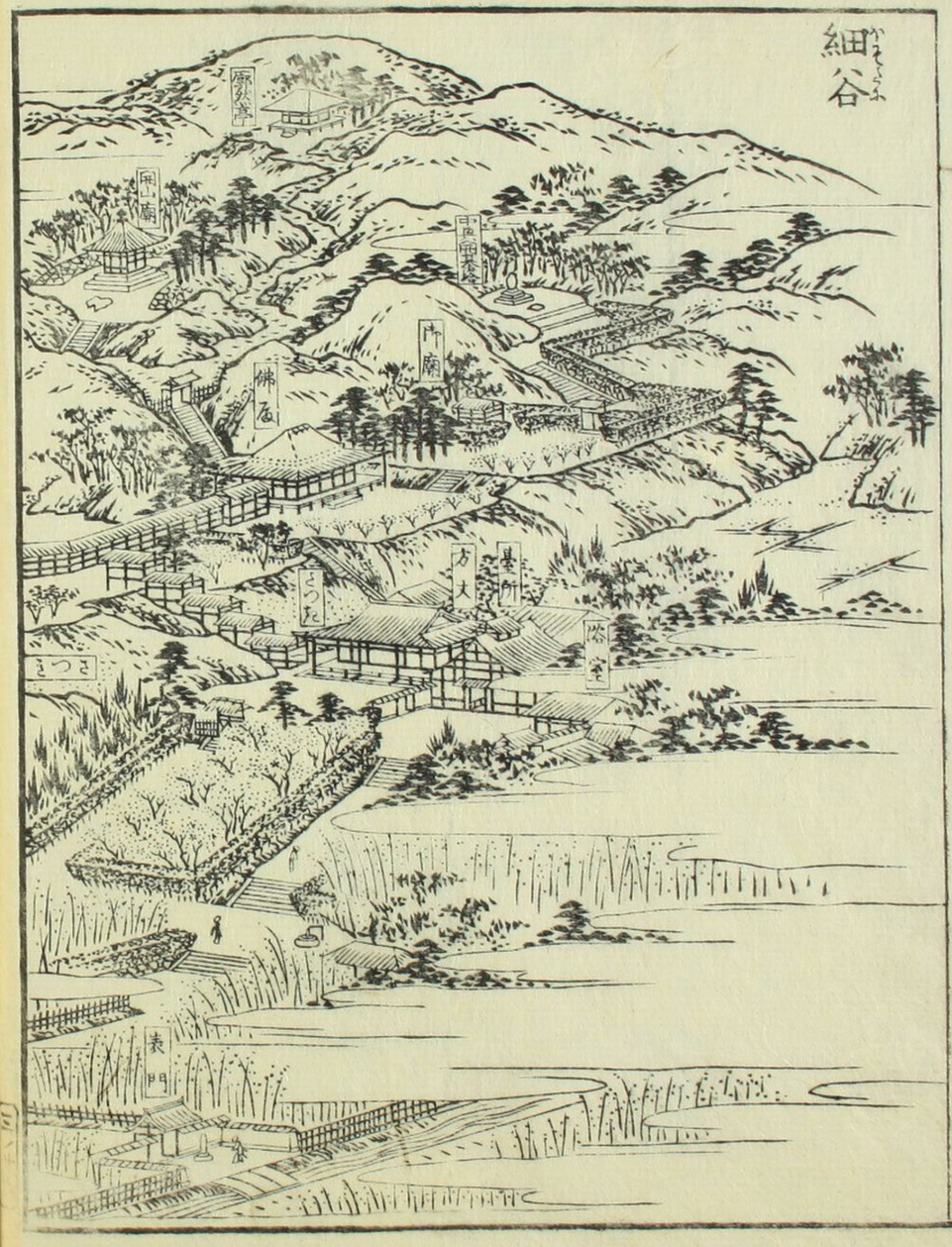
長名椿 番寺の庭中ふいみじたる椿ゝ 実ふ八千代を歴へき荘子の語のおもとげうなり

北野御旅所旧跡 下立賣紙屋川の西ふあり小祠あり菅神 故祭るむかしは
音樂 遷幸しまつる 神輿 祇園 社 祭礼 小野より此所まで續た

白樂天杜 沸旅所の西南 橘次宅地 木辻村南側 畠乃字とうたうり
花園 今妙心寺乃地とて 花園 社を妙心寺の西一町ばかりふあり
協地藏 下立賣乃西法金剛院の堂ふあり 本尊地藏菩薩坐像八尺ゝて
弘法大師の作なり六躰地藏十王堂 燒亡ふあり 俗云律殿 院 橋の上ゝ阿弥陀
極樂橋 地藏堂乃西街道乃中ふあり 佛聖衆と来迎の躰相とを見給へ
安居 於藏堂乃卯辰の間ふあり 沸所 沸門跡と称と 燒世 東ふ飛興あり
龍翔寺旧趾 安居村ふあり 沸宇多院 塔 此所ふあり 伝云沸髪を藏る所

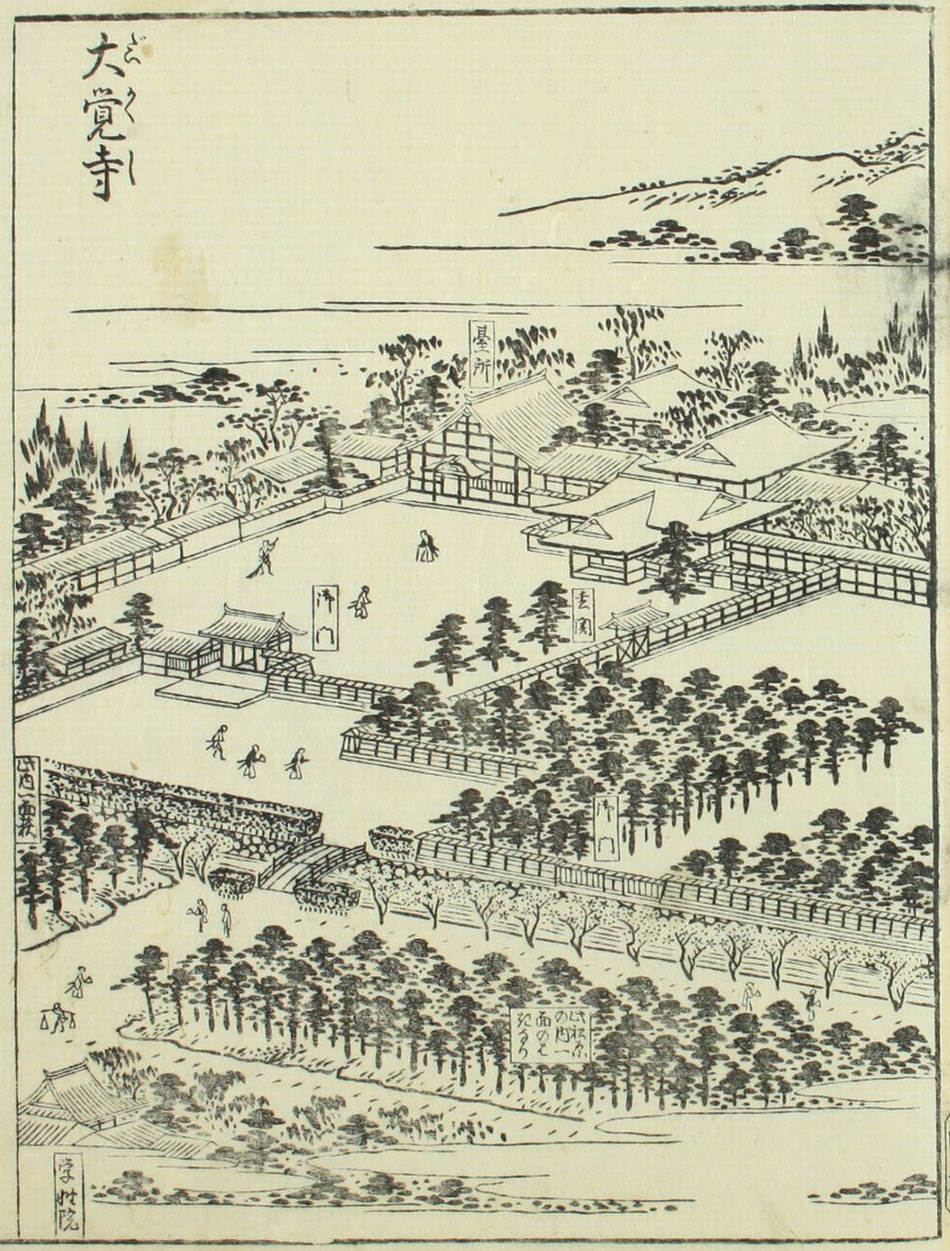
○ 足利次下ふ圖 右白虎の巷ゝて洛西北嵯峨 ゝ常盤里又ハ ゝ尾
等ゝ略て南ハ長岡山崎の間ふ玉て城 揮の界まとゝあり


祥鳳山直指庵
客殿
本堂
庫裏
鐘楼
本門


細谷
厨子
開山堂
佛殿
門廊
方丈
墓所
表門

ぬれまさる
こ井と後ほ
初かりれ
翔ふあら浜
よしの
枯風
白土左后大夫後成女

北嵯峨山
新古今


大覚寺
墨所
雲園
清門
清門
学問院

護摩堂
清門
大沢池

水尾　愛宕山一ノ麓居ノ左ノ街五十町ニ有ル

清和天皇社　日所ニ有リ續日本紀曰宝亀二年十二月辛未山背國水雄岡ニ幸シ延暦四年九月庚子水雄岡ニ行幸シテ遊獵シ給フトヽ云

水尾陵　日所ニ有リ清和天皇ノ御陵ト云フ民居数ヲ隔テ西ノ方ニ脇ヲ廻テ古松有リ

三代實録曰元慶四年十二月癸未申の刺左上天皇圓覚寺ニ崩ス給フ春秋三十一　天皇日儀甚美帯儼ヲ神ノ如シ性寛明仁恕温和ニシテ慈順ノ力外立領国政輟ル所ニ發言舉動ノ際ニ必ス禮度ニ遵フ好書傳ヲ讀思ヒ政釋教ニ賢ニ鷹犬漁獵ノ娛常テ意ニ留ラス疊々焉トシテ人君ノ量アリ又曰同十二月四日夜酉の四刺左上天皇ヲ山城國愛宕郡上栗田山ニ葬奉リ御骸ヲ水尾の後山追善の為詔ヲ下シテ法會ヲ修シ所ニ荒廢シテ絶ル存ニ本尊観世音用基祥ヲ以テ當寺水尾山寺　同所ニ有リ今ハ清和天皇崩御の後山追善の為詔ヲ下シテ法會ヲ修シ所ニ三代實録曰元慶六年十二月四日壬寅清和天皇ノ御忌動シテ圓覚寺又貞観寺　水尾等ノ二寺ニ使ヲ遣シ切德ヲ修セシム圓覚貞観の兩寺ニ嚫綿各ヽ四百一十一屯水尾寺ニハ二百一十一屯

福田寺　愛宕山小坂ニ有リ用ル本尊土宗ニシテ本尊阿弥陀佛坐像二尺五寸ヲ以テ御季料ヲ用ル甚慶ノ化ヲ用基祥ヲ以テ五輪石塔ヲ建ル又左右二塔有リ祥

後亀山院陵　當寺ノ内西ノ方ニ後亀山院ノ陵ト云フ

南朝の帝ヲ当朝文中二年即位ス其後若干ノ年ヲ経シテ明德三年十二月入滅シ左上天皇ノ號ヲ蒙ル成王ハ後村上天皇第二の皇子ニシテ三十一年四月十二日崩ス後亀山ノ陵ニ葬ル又曰

仙翁寺　愛宕一鳥居ノ上ニ仙翁町の小ノ下ニ有リ上古仙人住シ所ニ世寺ヲ建ル仙翁洞ヲ仙人脇ニ有ル草花ノ仙翁華ハ仙人ノ所ヲ

定家郷塚　小嶺峨平山ノ南畠ノ中ニ有ル仙所ニ塚有ルの由緒詳ニ不ス

生六道　清京寺ノ戌亥ニ有ル仙人山伏塚ト云フ本ル仙郷の塚所々ニ有ル後考ヲ待ツ

北ノ生六道ト云フハ小野皇平世ノ心ニ出ル所ニ野皇ノ化ト云フ東六波羅ノ六道珍皇寺ヨリ至ル還ハ冥土ヨリ往来ス

所ヨリ現ル故ニ名ヲ付ル望ハ常ニ瞑眠ヲ深クセル心時冥途ニ迷ヒ至ル

中院観音　中院町定家郷の内安持佛ノ仏本尊ヲ聯定家郷の内ノ民家會合所ニ安置ス仏本尊ヲ聯

宕老ノ子の人具先役ヲ一ツノ箱ト云フ近年相ヲ重ル當町村役ニ有ル

ヲ以テ箱ヲ開ケ共ノ先ノ箱ヲ清ル足ム可ラノ仏像ヲ

漢字の文章一通ある即二尊院ノ方丈ヘ露顕ヲ當町ニ持ノ

安置ス所ノ観世音ノ由来ノ定家郷ノ内持尊ヲ明白ヲ

柔液坂縁ノ尚源加ニ安置ヲ人ノ為村郷ヲ驚ヲ

安置ス既ニ近来ニ堂宇ヲ建立ス村老伝ヲ當ヲ今當町右の所ヲ

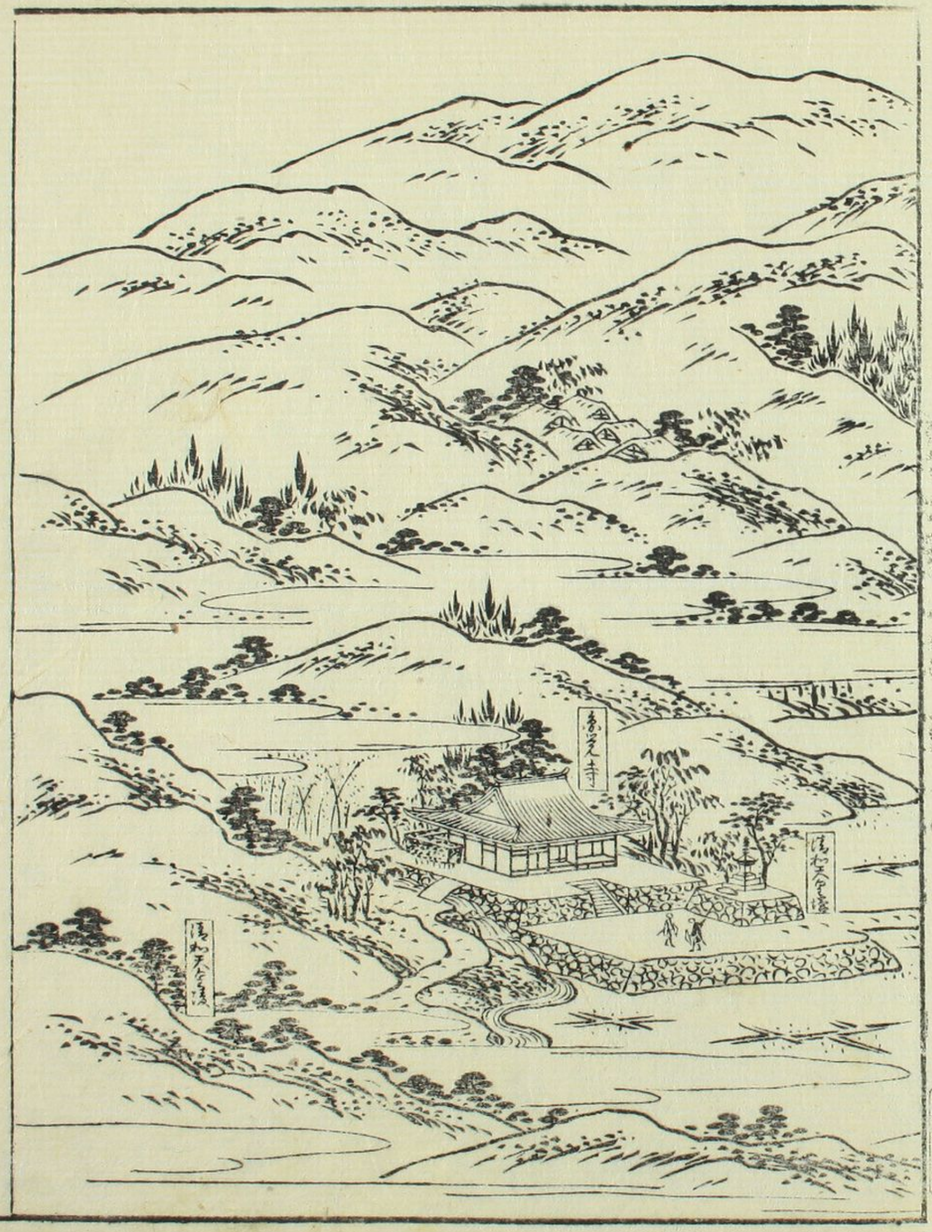
西行法師庵跡　二尊院中門の西ノ運善院ノ南萩の内ニ有リ

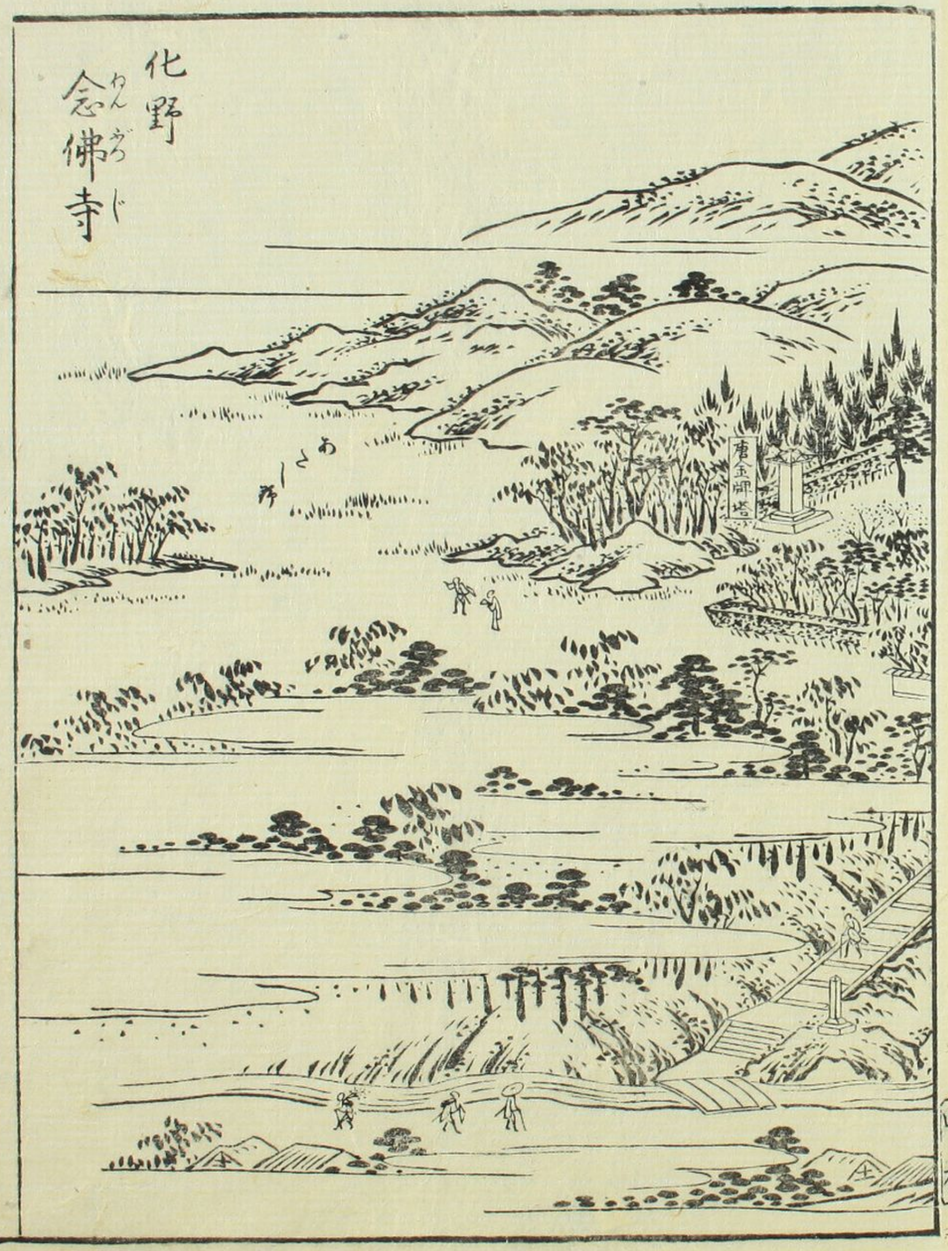
岩集

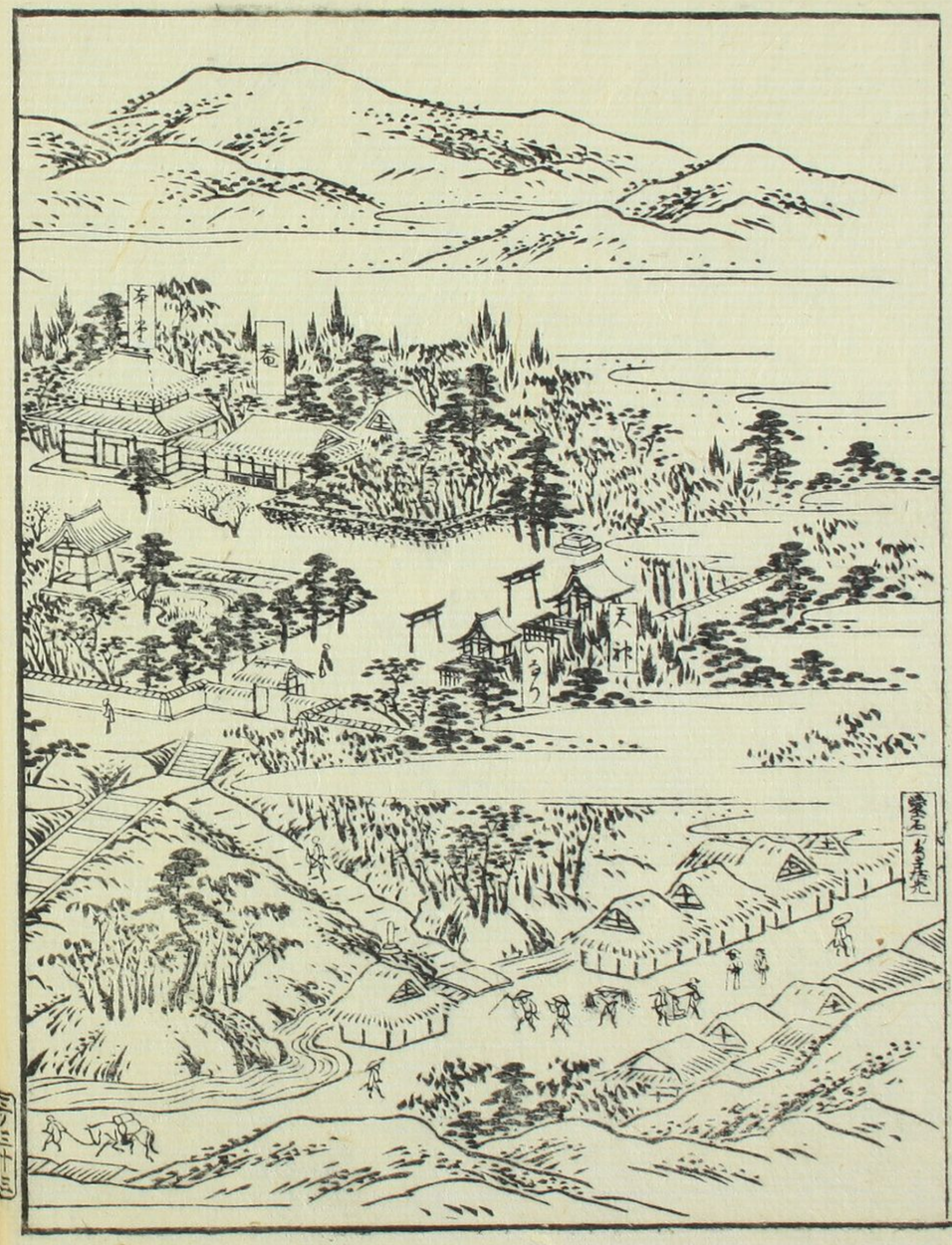
をしう思ふ金の山れとそ迎ふ者をむつらんの郷　西行

辨財天社　日所龍女北の所ノ由来ノ縁ニ不ス

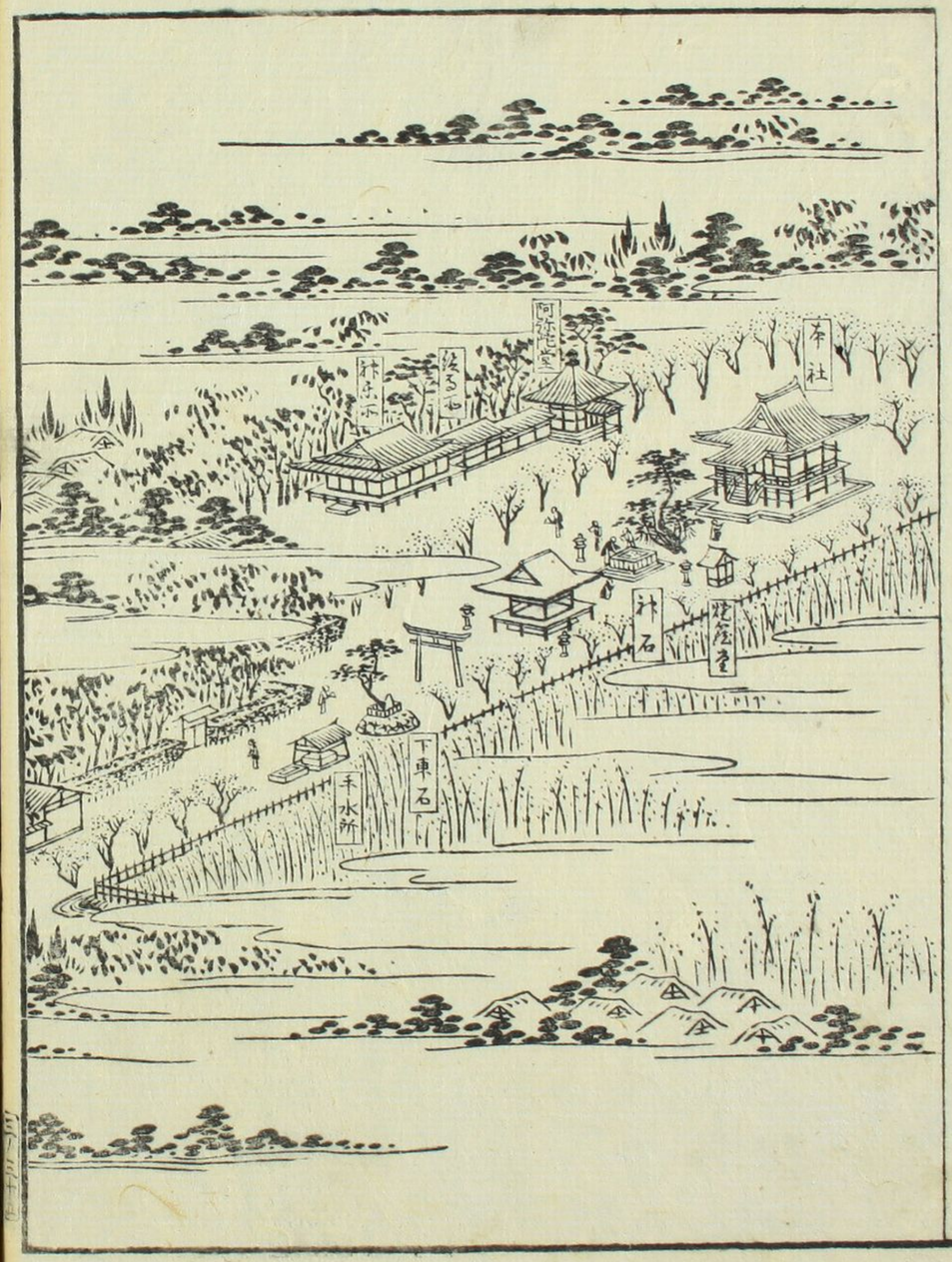
水尾村
清和天皇陵
四所権現
圓覚寺




化野
念佛寺
唐金剛塔


本堂
庵
天神

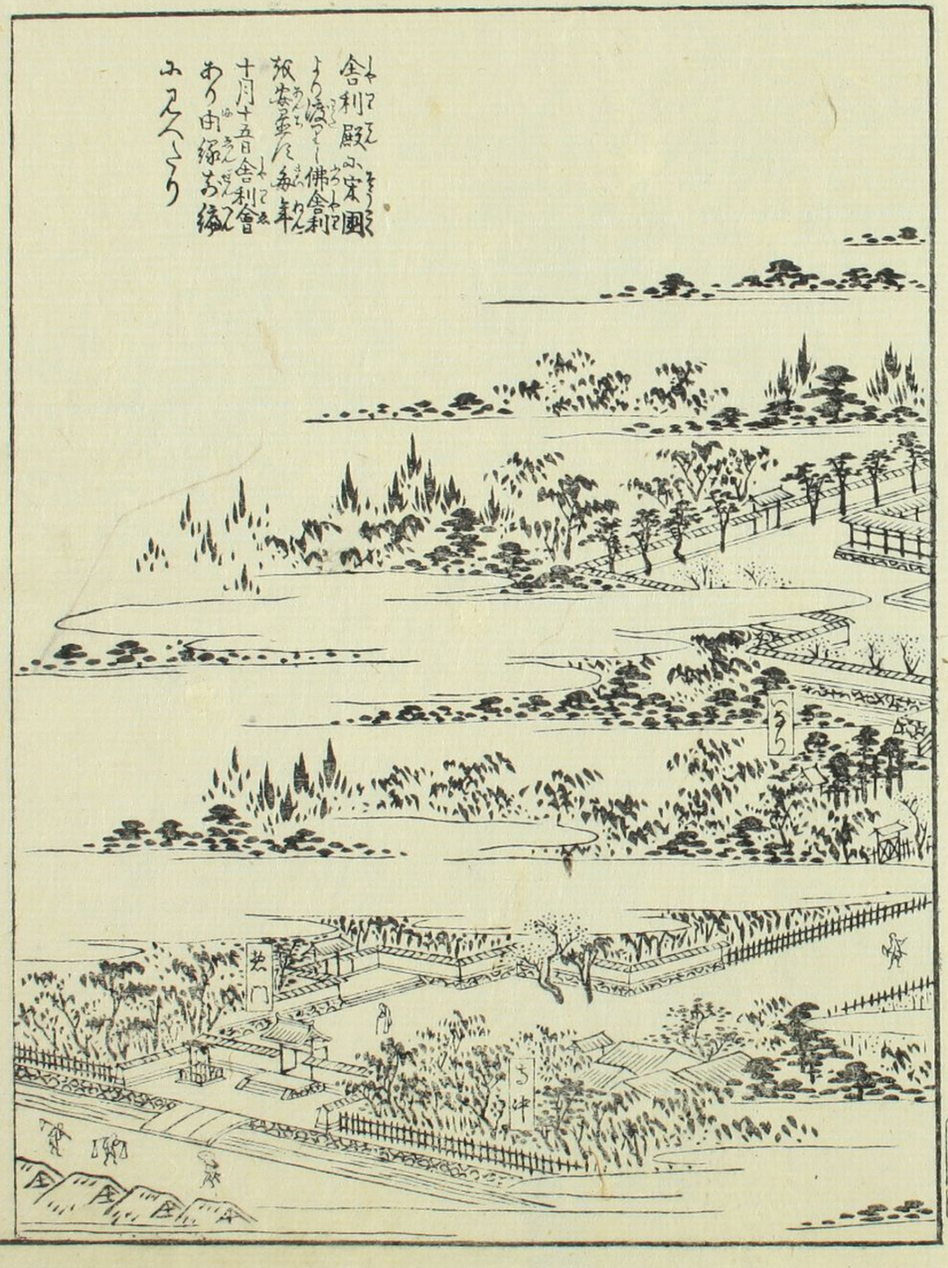
五所明神　北嵯峨大澤池の西にあり祭神八神明　八幡　加茂
春日　住吉の五社なり此所にあり大池あり此池に流れ
菖蒲谷　此所大覚寺の小ゝあり出して嵯峨
堀抜川　水源は菖蒲谷の池なり



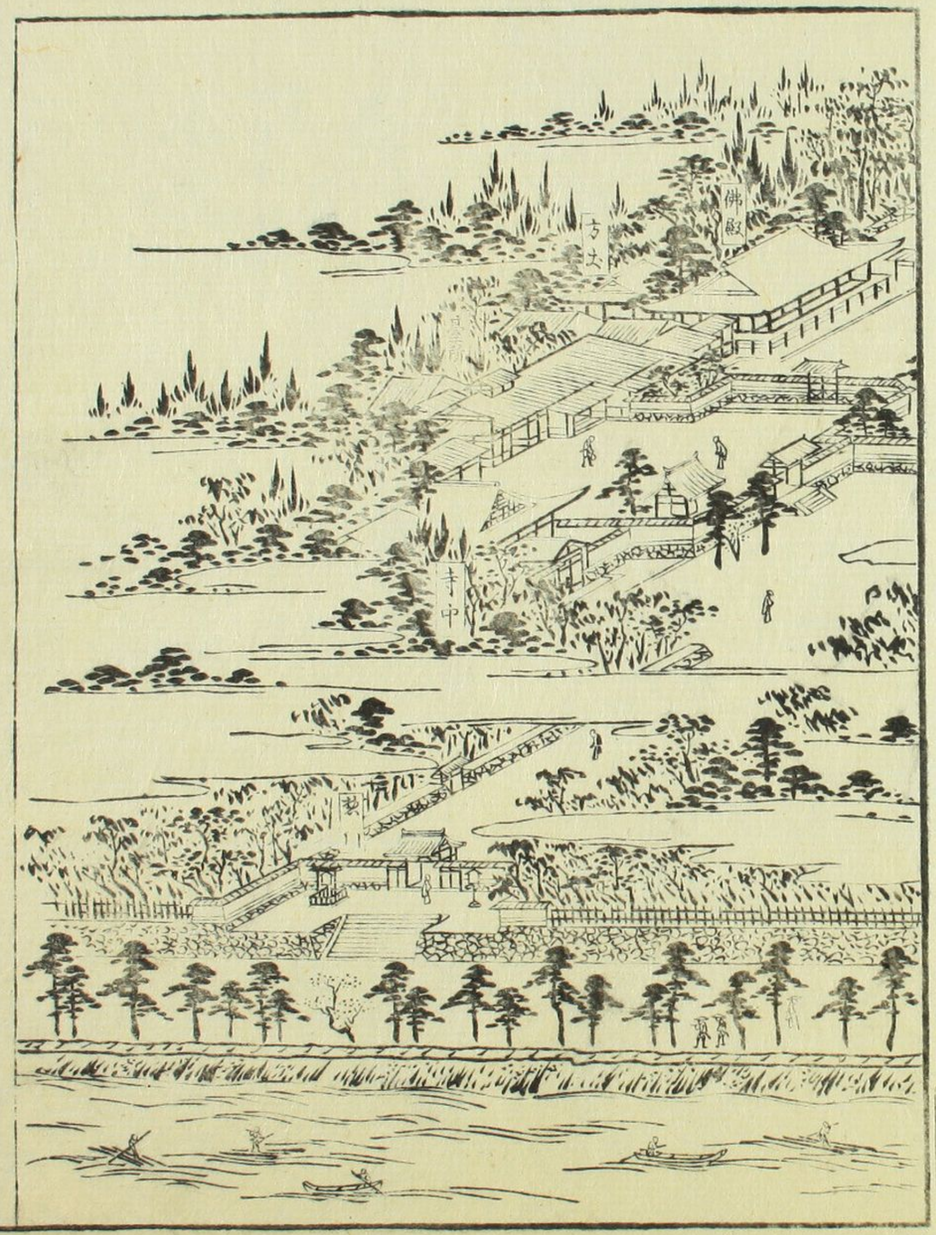
下嵯峨

車折明神社

祭神八幡白山院乃近衛清原頼業卿之艸人聰明精強みつく風流を好き櫻花殊に愛しまし故小社頭ハ櫻多し車折乃由縁前編ふ見へ弓


舍利殿
宋國より渡せし佛舍利
放安置ス毎年
十月十五日舍利會
あり由緒ある
ふるくさり
表門
裏門

鹿王院
方丈
佛殿
庫裏
舍利殿
中門


佛殿
寺中
山本

嵯峨
臨川寺
川井

嵯峨野　三代實錄曰元慶六年十二月廿一日己未勅して山城國葛野郡嵯峨野
ハ奮田樵牧制せず禁新ふ禁
城加ふ樵夫牧竪乃外鷹狩放ち兎
乃別莊かそくありて名所旧跡
傳記詳ふるいあらさだ多くいお編ふ乃ふ
上嵯峨下嵯峨乃ぬ名ふり今ハ民家建たてて邪とさと新多くい
形しいへり野山原とも
ゐ邪ふ嵯に

新古　さらの山ふ代乃ふる乃ふるあそふ春多ほを月乃弱　定家

新撰　夕暮ハ秋のさら邪れ春の来ふ乃ふ春ぞ去かる　前左政大臣忠定

玉吟　むらくもそそ月をさやふみて浮世とてしをさられふ水　家隆

兼明親王亭　今野乃宮の南ふ旧蹟あるとハ親王い延喜帝第十六の皇子ふ
て文学詩賦ふ達しさま人右大臣に任じ地ふ閑樓乃
起ハ貞元二年乃夏関白兼通公のてうしゆ多て
中務卿ふ任じ頼忠ふ左大臣ふ任じ宇多帝の孫源雅信ふ右大臣と
に兼明親王ハ（今上圓融帝乃父）白兼通忌悪んで右大臣
乃権ふ奪ふ村上帝乃皇子中務卿具平親王も詩文ふ巧し給人
故ふ兼明親王とい前中書王と号ふ
具平親王とい後中書王と号ふ

亀尾瀧　いへ亀山乃中ふあり山巒を溪堰を水脈きして今ハ絶て給人
著聞集　乃麓ふ嵯峨院　後ハ亀山の院もちふ仙居し給人
むらくら帰て沛政免でうく沛ふもちわと多くみふ和とう

山本

またあるとハ大井河乃ふ元ふ仙居ふうしてれそうまを造営乃
事ハ権大納言實雄卿乃ふ
前中書王乃ぬ元ふ倉ふ乃麓つぎとふ和ふ
自然の勝地乃ふ南ハ大井河の岸ふかれて法輪寺乃ふ
なり

増鏡云　嵯峨亀山乃麓大井河の小の岸ふあるてゆしを院をたて
せ多人ハ小倉山乃松戸離頭乃麓もさふ沛垣乃内ふ見て
つぐやをたくろハぬ千載しおのぼ乃勝ふくそうり所
いうぐ多絵所とて筆ふひぐ宿屋乃ふひふいぬ
ハふあるて西ふ薪草院東ふ如来寺院ふどいふもなり橋乃
ふ后乃むり立られし極楽寺といひしふ今ハ破壊しくて
ふそうふ成られを其ふ沛堂をそさを
ふ金堂ふ成られて沛金剛院とい沛堂をそさを
乃ふ元ふ人ふ長老ふ乃ふ土宗ふ成をる天王寺
さて乃ふたをたくハふ大多勝院と南ゆるハ考てんれ沛特佛をく
さてまるせ多ふ云云

続古今集　亀山乃仙洞ふ吉野の山乃橋ふ成あまをうく行りしを
花のさそれ多とをて
春毎ふそひやれしみうゆ花ハ今を宿ふ咲ふれ　左上天皇

徒然抄云　亀山院沛ふ大井河ふ水ふ成ふ色ふられんをて大井の土民ふ仰く

大堰川
漁釣躰
一口ふ
ゆを
をろす
結と
釈也
江戸
一鉄

水車弧はくらせられさう
出てうけさうなふおかの
はかふまるでいさつふ
させられたやそらに
てあとを入る事めでさう

後嵯峨院陵 嵯峨天龍寺乃西小ふあり今祥寺文永九年二月十七日亀山乃別院萩草院ふおかて崩御しまつる 聖壽五十二歳

亀山院御塔 今天龍寺乃西の山ふ塚あり古木森々として所地中やを怨くい山陵なるべし 紹運録曰嘉元三年九月十五日崩御しまつる聖壽五十七歳 増鏡曰亀山殿乃上の山ふ火葬し法華堂ふ立て骨ふ奉安し水脉前篇ふ見へたり

大井川 一名葛野川又西川ともいふ

後撰 大井ふうかぶ舟はるる小舎乃山ふ名はなやなり　業平朝臣

同 水上ふ名葉なりて大井ふむすこふ流れる流れ赤葉　堀川右大臣

千載 大井ふうかさもりうしひ舟いくせふ交れよ波明をん　俊成

古今著聞集云 亭子院の御時昌泰元年九月十一日大井ふ行幸有て紀貫之和歌乃序名序とかけるを見給ふ

あるれ我君乃御代長久ふて千代乃ふ流れ乃水の底ふ沈まる葉見へ
ぬるんまたくれぬ君乃枝ふ枝をおしみ給んとて月のうるのうるさ
ぬる乃梅津乃船ふ船をしてわりて波ふ月乃影ふ
金の山のやうらの水の大井の河ふ名ふみゆれしまを名方

乃空にいふふひきくる雲もあくみゆれとさうひまるる船を底ふ
ふこれふちるなくておかりんんふをかうんはとみことはりして
作ふ人ことでハ枝乃水ふうひまるれ紅乃山坂見まバ
燃乃山坂見まバ紅ふひまるれ紅葉のえれあ
しみ散てるるぬ面と燃
うどおどろれ霜乃鶏川を
夕の猿山乃ふか峰て人の泪をおくしこびのくる雲
はして玉章とみえあるふかの色水ふるそん人うおまるる
入江の松葉世へぬるんうんといふ事坂漢せさまるれるこ
心乃このもかれるふまるひ坂乃元ふ
坂草乃この霧ととの山乃元ふ
んぞうちかふことれ
坂の人ときんんあま
のをうめ

法輪寺

由緒お縁ふ坂書くれバ委くふ坂
作ふ地をいへうり橋
那下の騒人ちり詣し
酒なめ渡船橋の行人
枝ふ乃山乃ふ乃葉ふ
塚西行樓東橋はこに
本朝

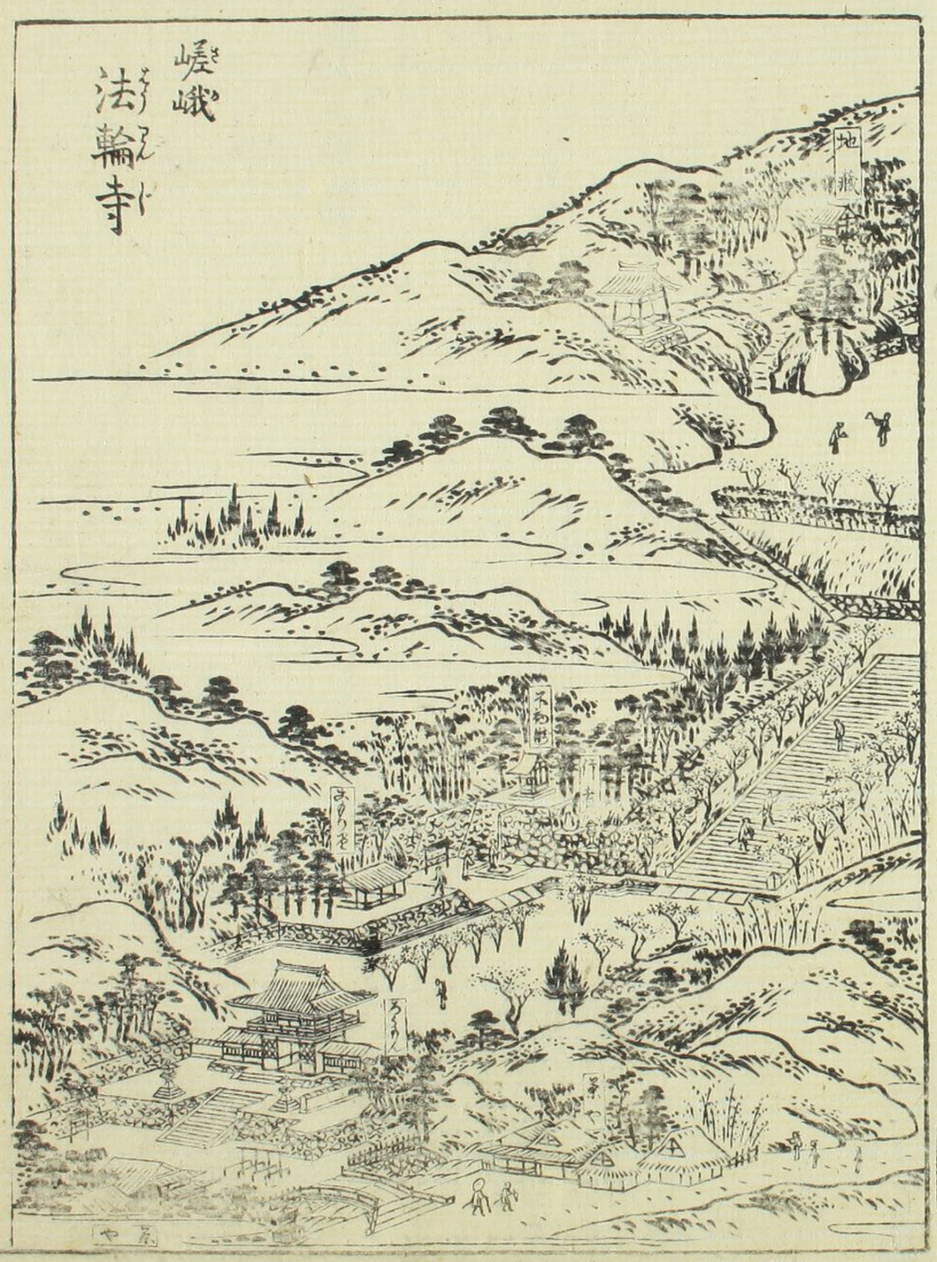
故ふ其圖坂越して
大堰の川辺ふやそこひく
乃さうみ
の山ふ小督が
伐を下を
の流ふ

家集 法輪寺ふ参こうた人の風雅
帰さうもとそふ
岡雅

詠ふ

ちこに吟こたひをけ帰人宿社業の松風　兼好

嵯峨
法輪寺



伊澤

西行橋

法輪寺の南にあり

新古今

ふるむしの
そでにもいとゝ
なれぬれば
ちるはつれ
なくもあるかな

西行法師

大悲図

嵐山の西法輪橋より十町ばかりあり僧都乃祝ひて立像三尺ばかりの観音安置し法華堂あり衣を着し七十有余れ相形手ずから石割谷と特て石上に縄掛圓坐し片膝を立て坐せる人大井河の巖石を破碑き丹波国より舟掛通りむ足二列乃益ゆてむうるる今ゆゆ〳〵敬舟筏〳〵も自由之了以碑石図のお左り側ふあり序銘林道春撰する所なり

吉田了以碑銘

古云舟楫之利以濟不通嘗聞其語矣今有其人也了以史其人歟了以姓源氏其先佐佐木支族號吉田者宇多帝之後也云爾世住江州五代祖德春來城州嵯峨因家焉其所居乃角倉地也洛四隅各有官倉在西曰角藏語在沙門石夢窓天龍寺圖記中德春子宗林宗林子宗忠皆潤屋也而仕室町將軍家宗忠子宗桂薙髮遊天龍蘭若嘗學醫術一旦從僧良策彦適滄渤赴大明明人或稱宗桂號意菴蓋取諸醫者意也之義還干本邦其業益進娶中村氏以天文二十三年甲寅某月某日生了以譯光好小字與七後改名了以性嗜工役嘗雖志筮仕而未肯事信長秀吉矣及干

前大相國源君之治世也而初出奉拜謁焉慶長九年甲辰了以住作州和計河見舟以為凡百川皆可以通船乃歸嵯峨沂大井川至丹波保津見其路自謂雖多湍石而可行舟翌年乙巳遣其子玄之干東武以請之　台命謂自古所未通舟今欲通開是二州之幸也宜早為之丙午春三月了以初浚大井河其所有大石以轆轤索牽之石在水中搆浮樓以鐵棒鋭頭長三尺周三尺

柄長サ一丈許繫縄使數十餘人挽扛而徑投下之石悉碎散石出水面則烈火燒碎焉河廣而淺者帖石而狹其河深其水又所有瀑者鑿其上與下流準平之逮秋八月役功成先是編筏纔流而已於是自丹波世喜邑到嵯峨舟初通五穀鹽鐵材石等多載漕民得其利因造宅河邊居焉玄之嗣焉子巖昭受傳之玄之能書且問儒風於惺窩先生有年矣一旦招先生遡遊于河上奇石激湍甚多請先生多改舊號其白浪揚如散花者號浪花隈大櫛其齊沮環石者號觀瀾盤陀有石相距可二十丈猿抱子飛起其間者號叫猿峽鸕鷀棲束有山巖高嶮有捷鶻之危巢者號鷹巢石壁斗絶頽如萬卷堆者號疊書巖皓皓此處有石似門廣五丈高百餘尺者號石門關有湍急流舩行如飛號鳥舩灘鸕鷀灘隣於水尾世傳清和帝嘗來觀魚于此焉岸有山岩高可五十丈其下水平衡如水載山取山下出泉蒙之義號曰蒙山皆有倭歌在其家集惺窩所遊觀止此焉復各石方三丈許其面如鏡聳於水崖號鏡石又有浮田神祠世傳遂古之世丹波國皆湖也其水赤故曰丹波大山咋神穿浮田決其湖於是丹波水枯爲土乃建祠而祭之以鋤爲神之主此神即是松尾大神也下此則愛宕龜山在左嵐山柱右其勝區不可枚數十二年春了以奉釣命通舩於富士川自駿州岩淵挽舟到甲府山峽洞民未嘗見有舟皆驚曰非魚而走水恠哉恠哉與胡人不知舟何以異哉此川最嶮甚於嵯峨然漕舩通行州民大悅十三年又命了以試自信州諏訪到遠州掛塚可通舟天龍河否了以雖即漕盪然無所用故至今舟少方是之時營大佛殿于洛東大木巨材甚勞挽牽了以請循河而運之乃聽之於是自伏見里浮之河泝而槃焉了以見伏見地里於大佛殿基可六丈即壞其高爲是於平處若河曲處置轆轤引起復浮水水平如地先是呼許呼邪者五丁夏之萬牛難之於是水運不勞力不日材木悉達人皆奇之十六年了以請行舟鴨河乃聽之因自伏見河漕舩遡上流達二條至今有數百艘遂搆家河傍使玄之屈之玄之男玄德嗣焉十九年富士河壅嶮舟不能行

鉤命了以有病玄之代行治水又能通舟三月始役七月成之聞了以病急告假玄之未入洛先二日了以歿實慶長十九年秋七月十二日也時六十一歲此年夏營大悲閣于嵐山山高二十丈計壁立谷深右有瀑布前有龜山而直視洛中河水流於龜嵐之際舟舩之來去居然可見矣其疾病時謂曰須作我肖像置閣側捲巨綱爲坐挈爲杖而建石誌玄之等從其遺教玄之錄其事以寄余請之記件件如右昔白圭之治水以隣國爲壑張湯漕褒鉾嶮巇不能通今了以疏大井河瀹鴨水決富士川凡其所排通釃閥則舟能行不負其載人皆利之與白圭張湯所爲大異矣所謂舟楫之利以濟不通者不在茲乎宜哉垂裕後昆余與玄之執交久矣故應其請書焉且旌之以銘其詞曰

排巨川兮舟楫通浮鴨水兮梁如虹矧復鑿富士河兮脊成功慕其錫玄圭兮笑彼化黃熊嵐山之上兮名不朽而無窮

寛永六年冬十一月日

雲おく
人は
月に
ふる
雨

野依　高倉宮の御子蟄居しまゐらせ給ひ俗名おりはの由平家物語に見へたり
今祭礼次第曾義仲上洛して暫く主ましまし故に本曾の宮とも称せり所に巌あり

別雷峯　松尾社乃山上にいます所に松尾神降臨の所なり
松尾神詠云
山城乃別雷山尓宮居士亭天降古登神代與利佐幾

最福寺　松尾の南松室村にあり俗に宗尊親王の当寺を安元二年に延朗上人の開基なり久しく荒廢ふ及しを再興して移し建る所なり延朗上人の像当寺に安置して坐像三尺餘りて上人在世の時佛工に命じくさのんぐ作らしむ所なり

峯堂谷堂　舊跡は葉室下山田乃西に上にあり法華山寺と號して延朗上人乃開基なり佛閣巍々として四十九院十二の樓閣五重乃塔三間四面乃輪藏等あり老巌院清宇正慶元年四月九日千種頭中將の軍に羅く灰燼となる其後小堂成れども南面の山上方二町ばかりの所瓦石銅鉄の具土中より出るとて今下に山田の堂乃本尊茅師佛は今下に山田の内小堂に安置尊像所く焼損谷堂乃本尊十一面千手観音は今下津林村に安置

真如寺　葉室乃山上にあり法華宗にして中興寂遠院日通洛陽妙傳寺の十二世之万治年中に再興を當寺は舊三議良繩朝臣乃建立にて天台宗之旧地は今の地より西の方へ去る東二町とより平尾山のふもとより土人其地を古真如寺と称へ初建立乃由縁は二代実隆公に見へたり真如院とゝなく正慶元年谷堂と共に焼失せり今義覚大師の聖観音の尊像は当寺にあるを

神代三陵 延喜式曰 日向埃山陵天津彦火瓊瓊杵尊 日向高屋山上陵彦火火出見尊 日向吾平山上陵彦波瀲武鸕鷀艸不菅合尊

已上神代三陵於山城國葛野郡田邑陵南原祭之其兆域東西一町 南北一町 云 ムミツの陵今詳ならず文德帝の陵れ南二町又件乃塚れ乾二十餘間 治傍の西面ふ小塚一ツあり是陵乃移る所の是又神陵坂 多の新の後考あるべし

大梅山長福寺 東梅津 禅宗 あり 佛殿乃本尊ハ釋迦佛脇士ハ普賢文殊 表門の額ハ長福寺と書たて世尊寺忠季卿の筆 佛殿の額ハ祈禱とあるて筆者詳ならず開基ハ月林大幢國師大元國ヿ入て法坂茂古林ふ嗣かの國ふ渡りて佛惠智鑑大師と號を是則大元乃文宗帝の勅號之又普光大幢國師と号に滅後七年ふ及ぐ後村上院の勅號ならて花園院と沛帰依あり即ム帝れ沛塔所と別傳院と大寶輪と號を宸影の畫圖當寺ふあり上の沛瓚ハ沛宸翰之 予之陋質法印豪信 干時暦應改元無射之候也

開山塔坂圓明と号に同所清涼院ふある

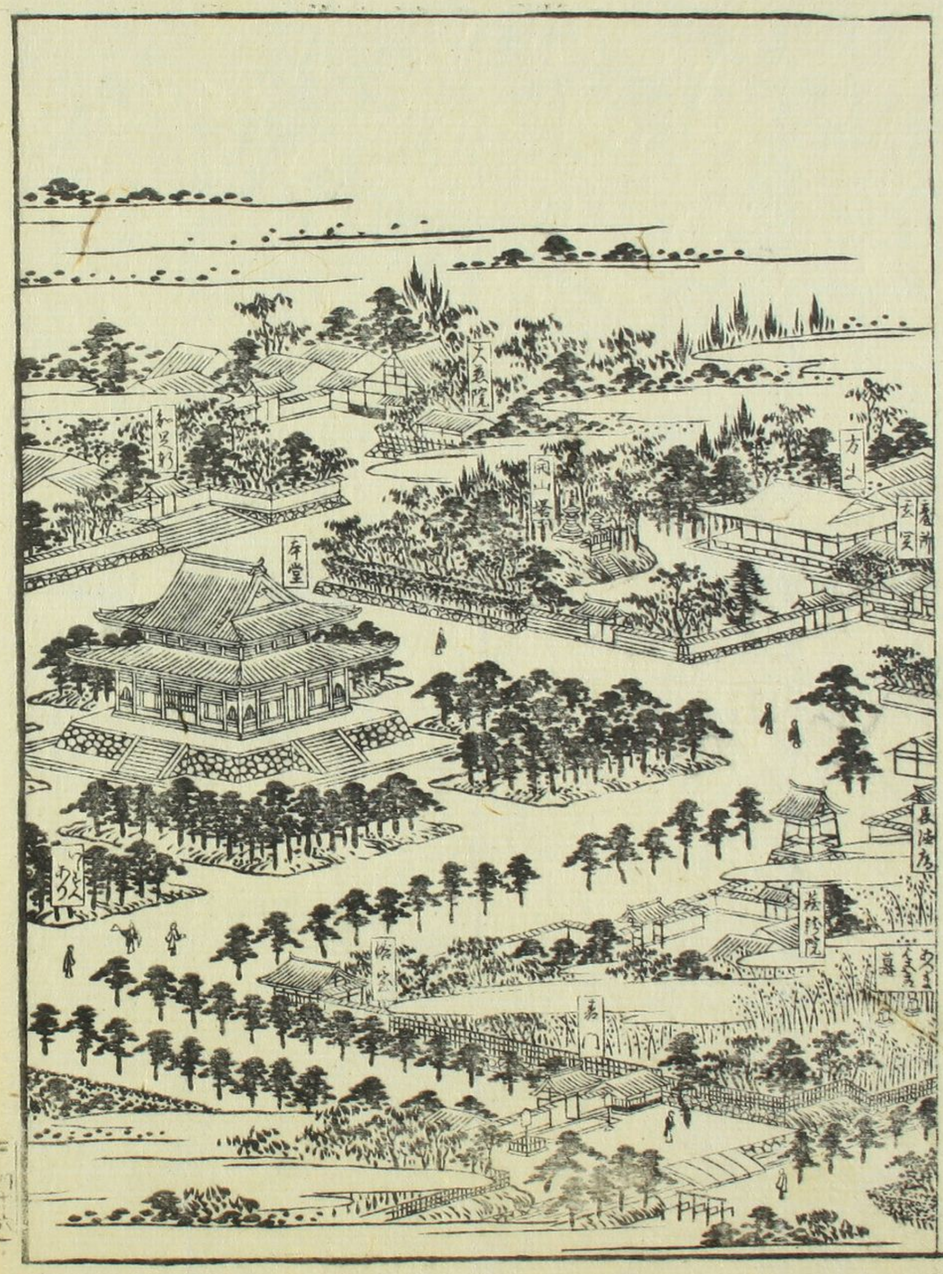
抑當寺の初ハ天台宗ふて真理とム女僧れ建立之それより年久しくあて山墨ふ梅津左衛門清景とム者あて月林和尚を尊信を其時清景當寺坂領ど忽和尚ふ附與して禅刹とうとあるを梅津左衛門塔 長福寺の門外ま町

山之内 三條乃西千本より十四五町ふあるム所いの内裏れ時長安 三條乃西千本より十四五町ふあるム所いの内裏れ時長安 封境 昔ハ比叡山の座主良真の領内之故ふ山之内と号に今村の名と坂則草堂ふ傳教大師の画像あり又里乃西端に山王祠 山之内街道乃西より南側ふあり洛陽西六條興正寺乃急所

徳成寺 舊跡 古親鸞聖人愛宕月輪寺へ詣しあるム山ふころ

西院 四條乃西千本より西六町ふあり本名淳和院 拾芥抄曰 橘左后家と 嵯峨天皇乃長女仁明天皇と同腹 后ハ淳和帝乃后 諱ハ正子 承和七年五月淳和帝崩しあて後宮を后 嵯峨を上天皇崩ど皇太子 ある同九年 居しあ 須観二年五月淳和院ふ於て諸寺の名僧 設 延暦寺乃座主圓仁大阿闍梨 財宝坂施して大齊會坂設 梨として菩薩戒坂受 良祚と坂慶三年三月廿三日薨ど

東梅津
長福寺



仕皇后慈仕天到うり東西の京の藥兒孤稜を拾ひ救めあしふ乳母坂給ひ嘗るさしめ大覚寺と精舍うつくし崇我乃故宮と側ふ濟治院坂建て僧尼の病者坂療に淳和院をつて道場を
うに（巻三十五丁目）又曰天長十年二月廿八日乙酉　天皇淳和院ふ遷幸はし
まして淳位坂皇太子ふ讓りまつる（同巻十四丁）

西院乃后淳ふ
くるこれ院の中嶋松とけりうそ身はなる

後撰集　とふ人ふ松ふ浪ふそ見るむ人もむをあまを住ふ　素性法師

仕所其後源氏乃公卿の学宮ふ故ふ源氏の長者ふる人當院れ別當
ふ補すはる淳和院小松院宇永德三年の春鹿園院義滿公左大臣ふそ
淳和院乃別當坂兼帯しふ人つ左大臣ふ任坂兼帯せしはるる
源氏乃公卿大中納言ふ及び大臣ふ任坂兼帯せしはるる
春日社西院村乃小のくに林乃中ふありいつへを神祇官ふる故ふ神祇
官春日社と称を土人産沙神ふ例ふ九月九日ふ神輿二基
住吉社同村西の方南半町ふ鎮守ふ坂乃地の寺と寺の西と六月廿八日ふ坂あり
當社を即鎮守ふ坂乃地の寺と寺の西と六月廿八日ふ坂あり
日照山高山寺西院村東の澤土宗ふして本尊ハ子安地藏菩薩
入口ふあり
惠心乃化ふ初ハ山嶽横川ふ安置しまひしを心入寂の後志賀里
木村成近尊信しをれを家ふ安置其後逆乱ふ罹て山ふる縁坂
抱き小國さして落行しを墓ふ江別堅田れ傍田中れ平林ふ葬置ふ

まをる仕所夜毎ふ光明赫奕して白昼れ如し村人みれと奇ううして
彩ふ見ふ地藏尊を浮ふ即小堂を営て田中の地藏ると称と其
文永年中堅田住人名村小右ふ重後ふ婦子のうれ来坂拯て山尊像
祈誓ふれを忽怪身ふ成月満て男子を産ふ子安の尊像と
号ふ暦應の比足利尊氏將軍帰依あて浴の西今れ地ふ遷伸
仰附られ洛陽六躰地藏巡ふ乃其一尊と称ふ（第一壬生ふ第二番第三運基地藏第四川崎清水院第五祇陀林寺第六鳥邊野寶積寺仕六ヶ所と）又其後東山殿（義政公）も淳信仰あて
小乃方淳平産れ験あるれ累年仕地安置て霊應はをく隆と
冠石當寺本堂乃お法寺乃傍ふあり冠の形をを
高サ六尺餘冠の形をを
さて仕ふ木つ英賞ふる来多し
又樹家ふれを見て規範とをれ
秀傳庵同村春日社乃裏ふあり禅宗ふして本尊阿弥陀佛惠心の化と
本尊聖観音みて禅宗黄檗派と
宗圓寺同村街道の南一町ふあり法源和尚ふり興の開基ハ獨湛和尚中の後水尾院乃勅願寺ハ獨湛乃
筆ふる當寺乃什寶ふ霞金一口あり後水尾院乃作奇附と両の環
黄金みて霞ハる濃と以て樹ふる
歳代の名器ふり

寶藏院 同村宗圓寺の南に隣り法華宗教尊阿弥陀如来と則當村の
草堂として又山寺乃西に左田氏として農家あり古へ
より傳来乃三尊佛あり阿弥陀佛坐像五尺脇士に観音勢至
なり則此地前に記を住吉社乃南に此所の字も寺の内と号して
むかしの寺院なり其本尊移つて
今氏家に安置をなるなり

野宮 西院村五町ところ性還乃西林の中にあり此所に崖岩に同しく齊
宮乃居所にして際齊の地なり今西院春日明神 所祭所なり

玉葉 白ひうちとく咲る花とも君がこゝろ打とし枯し色ぬる

敦忠

五し

枯ぬるしぬる白に花をもしれば我こゝろ色をもやはる

稚子内親王

清泉 野宮より南一町ところに小祠あり 清水祠と称す 祭神 祥 梅小路土御門家 晴明社 同所にあり近年新建 社 再建 建

天文臺 西七條の南 憲内堀の内にあり

御所内 西七條乃南七町ところに此所の小を御所内の中にあり本尊阿弥陀佛 坐像二尺五寸 若昔此地

勝定院 故に御所内と云 所内の中にあり本尊阿弥陀佛 坐像 今浄土宗 伝おなし

越前幸林房塚 同所 祥 二町ところに

福源院 川勝寺村にあり此寺に大架にて勝寺此地 舊記 今里乃
小に塔の本といふ地あり塚のやう是則塔ありし所なり又あり

堂の内とふづる地乃字あり此地乃字 一寺あり 変せり

津寺 勝寺村性還乃小側に建立の舊記あり本尊薬師佛 立像六尺
行基乃作乃由所にあり祭神 松尾に同し 祥

三宮 神輿の御旅所なり上桂中桂下桂と三村に分る

桂里 桂川の西にあり 京極家別荘あり殿舎花美なり宮殿里に永に

桂宮 枝ぬれと月はなれなるる光を花とちらにたるる紙

古今 久かたの中に枯ひろる雲をれて光紙のうへにあらなん

伊勢

後撰 秋の風に花れ白ひをなくてちるを林の例とそなる

新古 久かたの中なる月はなれなるひ風に契をやこ紙まつん

定家

續後撰 うつろひてちるを乃花れ紅葉の例きはの例なるに紅葉

實方

年奥に此河の名産にて

六帖 朝ふく日次侍なる桂船あゆ紙をこぶるもの

信實

藤原兼房山荘 桂の山荘にて

後撰 紅ふも絶どとする内の武田べき人も同じ伝家紙

藤原兼房

案内ふくして
置賜の迫乃城
行わ好さること
雪解の旦名立
乃渡細谷川の
ふかきもわ渉り
て渉るわ足さゆる
ばあ傍ら大井川
いと荒くして
渉く見ゆる所も
足弱入をゞ渉び
例きて願ゝ
来多しこれぞ
老ゝ思ふ時へ
近憂あゝんん
の城ゝ入ゝ

老の坂

伊勢宅　むかしの人伊勢女山里ふ住るよし法之ふ見へ侍て梅の枝ふむそび
いせらかつ〜の家ふおりて梅の枝ふむそび
つまさせ給ふ

新撰　梅の花見るうたにはらたちふかぬ時そふるうたまさりけん　真子院

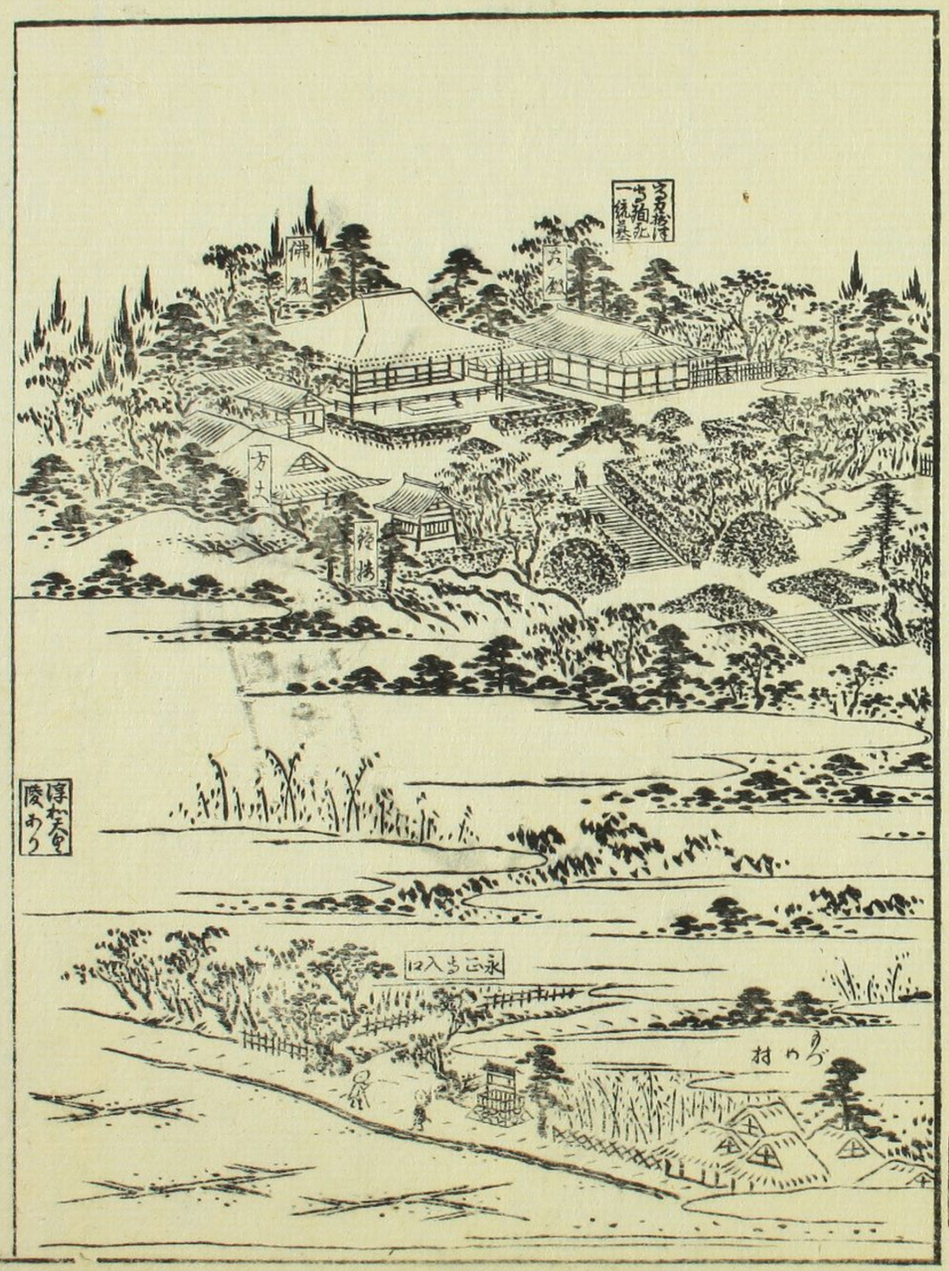
御霊社　上桂下桂ふ同神兩社あり土人生土神俗ふ八月十八日神
輿一基つゝあり祭神上桂社は火雷神下桂社は橘逸勢霊なり
保古羅明神社　土人生土神なり
子敦盛舊跡　下久世の西寺戸れふ田ふあり今は法ふ傳云法地ふ
敦盛の家塾居して男子一人誕生に真より源氏の
代と成り平家の裔なるを聞ふ絶て一条
乃下り松ふ捨ろり世旧ふ住居する者いみしへより皆怪異なりそ
遂ふ住人絶ぬ故ふ畠とうたもとり五穀實なる事なし
そのゝちふ世とうとも成り出れる米穀を陸をみを曽て茅こやを
ふしと

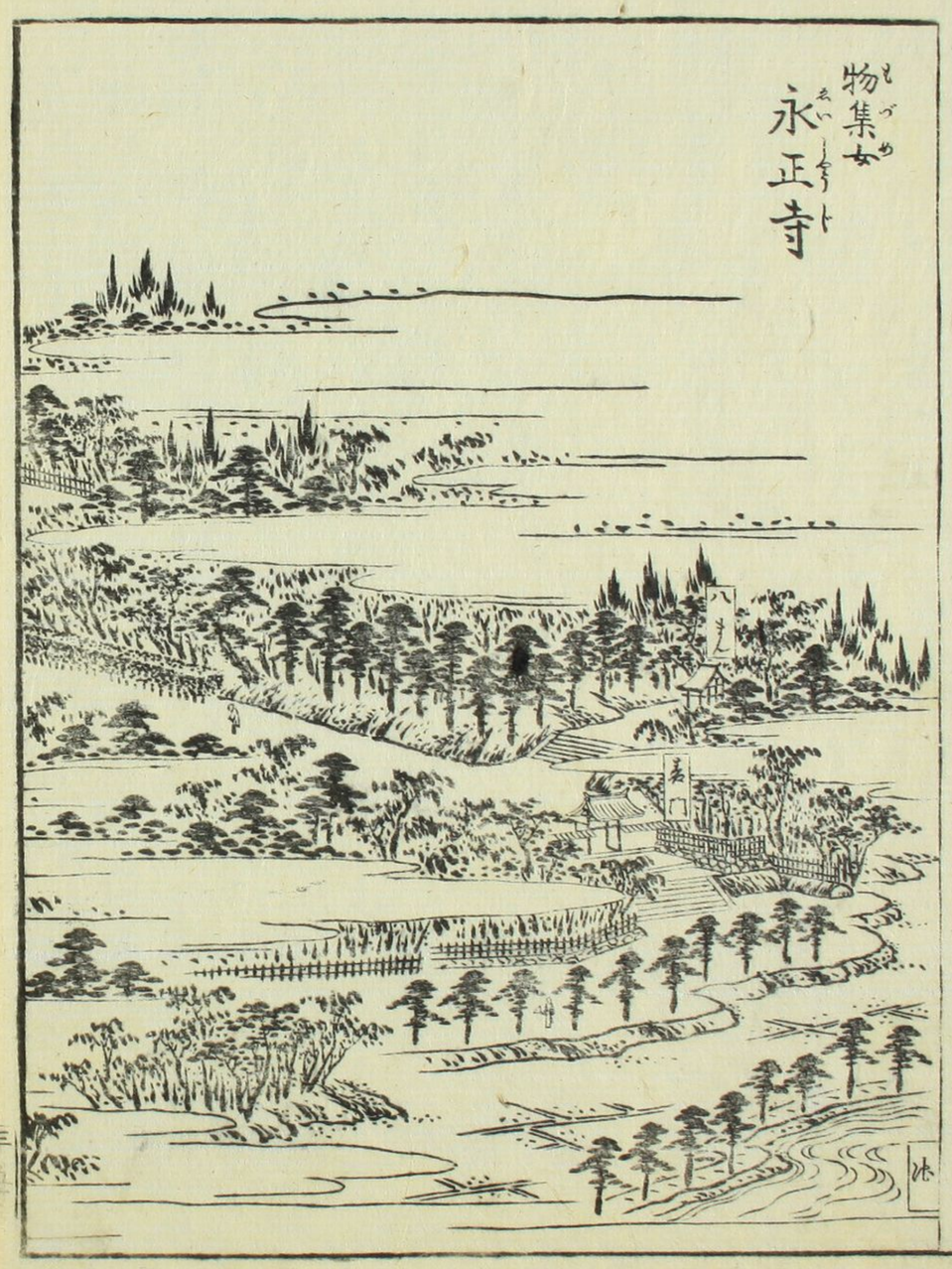
蓮生寺　上久世乃西ふ下津林ふあり宇津の宮蓮生法師ふ建立ともいふ
一説ふ熊谷蓮生が住しとも
観音堂　同所ふあり西浄堂と云ふ初メハ堂宇巍々たり今ハ草堂なり
本尊　元ハ葉室山峯堂乃
本尊　観音立像八尺計りて巻覚大師乃作
大原野　王城より凡三里ふて丹波街道樫原の末神一里ふあり大原野
ハ地名ふて中ふ三ツ乃村あり醍田郷小塩郷とて

後撰　大原や小塩の山乃小松原なれしかよはん世ふかさんと　貫之

続古　小塩山松風ふ琴しらるゝ大原のさとふ住やさえはさらん　中務

善恵上人塔　西山三鈷寺の山下三町ばかりふあり碑碣建ふ傳ふ云ふ上人諱ハ澄空姓ハ源氏　天暦帝れ皇胤に
て賀州の刺史親季乃子乃治承元年十一月九日ふ生る仏日家乃
祥瑞多し久我内大臣通親卿児の聰敏なるを喜く若子とし給ふ既
ふ冠禮乃儀ふおよ所童子出塵乃志ありてれを
辞て其嬉ふうるなくて父母愛情してれをゆるさんふ
一條戻橋乃上ふて試ふ占ふ其ハ僧を人あふ過るなりて真観清
浄観廉大智恵観悲観及慈観常願常瞻仰乃偈を誦ふ
観人ふ問ふ其法器なる事を詳し都ふ頭乃
官寺と撰人童子ふ名を願ふ賢所ハ吉水上人
ふ乃り父母禮ふ笑して吉水ふ贈ふ源空上人の曰今道世ふ門乃
入ふ上人ふ朝ふ所ふ黒谷乃經藏ハ己ふ勤蓮房ふ属
し吉水の坊も真観房ふ附し人ふ
地ふ童子乃曰今師ふ帰る事出離乃為ふて上人
童子乃発心其言のあるうるふ感して即日剃
と改名し剃髪乃時金色の観音鉢水の中ふ現を建久九年の春
源空上人月輪禅定殿下乃請ふ応ふ撰集抜著に善恵抜僧ふ
して文義ふ考定に殿下の曰師の減後ふ至ッて倘書ふ審あ
識人ふ使せん上人曰仏土乃興旨此書乃要義ハ悉く善恵ふ附属を我
ふ異ふ後殿下善恵ふ崇信しの人事初ふ倍せる師ふ親炙る事二十
三年都鄙ふ於て伽藍を建立る事一十二區遂ふ宝治元年十一月廿六日白川
遺迎院ふて入寂を年七十一世ふ西山上人と云ふ仏土宗一派の開祖なり


浮木観音
陵あり
佛殿
方丈
鐘楼
村


物集女
永正寺
八幡
表門
池

西ふみ行くるけむり　放きて

續後撰　草ふかやとのあるじと詠たふうた世を後るものの奇式　慈鎮

西ふる行くるれ書れ摩くるふ

續拾載　はるかなるこゝろ入れ詠ども霧こめ竹のそよぐの庭乃夫し雪　慈道法親王

世放のくれて後西ふはるこゝろ人ふつゝくる

千載　住すれしやどをい出て西え行月を待てふかこそ哀れ　平實方

書司院乃按察使西ふみそ世と道はるる放数てはゝつくる

續古今　西えゆ月はくものこゝろ有るふ放れやこのそれくるの世や　終明門院大貳

かへし

入くる放うた世乃かたるくさめて月ふ放れやこゝに有るる

長法寺

栗生光明寺より二町ばかり南ふあり又村の名ともるくさ天名

當寺乃什宝ふ唐筆乃涅槃像あり其形縱横四尺又六寸圖る所ハ釋迦如来涅槃ふ入る後再ひ金棺より出て光明放照しゆ放菩薩羅漢四衆鳥獸等釋迦佛沸毋夫人の為ふ出現しゆ形

摩耶夫人經曰

阿那律升忉利天以告摩耶夫人摩耶自天而下棺自爲開世尊起合掌曰遠屈下來復語阿難曰汝當知爲後世不孝衆生故從金棺出問訊於世尊已上佛祖統紀

立願山揚谷寺　桂谷ふあり前編ふ出をとゝ書してふ著をを本尊ハ千手観音立像ふ又ハ地藏毘沙門天の立像ふ當寺ハ白河院御宇ふ水觀上人ふ建ふ因樓しゆしふ本尊放威得しゆ

揚柳水　本堂乃うしろふあり眼疾ふ水と得て洗へゝ効平癒の霊験あり

鐲鉢水　日所ふ夫婦石前二町ばかり西ふ

夫婦石　溪川ふあり由来詳ふ路のくさ左の

浄土谷　柳谷乃奥十町餘ふあり民家ふ村乃名ふ土人浄谷と

むつ　惠心僧都ふあり住ふ居しゆ紫放後ふ人所之

浄土山来願寺　同所民家乃中ふあり今總堂と云ふ本尊ハ阿弥陀佛

坐像ハ天の長ふ惠心僧都の作

鎮守社堂　云ふあり土人生土神と例ふ神伊勢賀茂八幡稲荷

當寺ハ僧都の開基ふして

田畠の家のミ多ふ釋迦堂観音壇棚杵房等の名あり

石鐘　大日如来像　日所云ふ岩洞ふ安置

安養谷　日所東ふあり

丹屋谷　日所ふあり名義詳ふ放後

行道石　日所ふ行道持念しゆ僧都時々ふ来て

院墓　日村乃ふ上ふあり住ふ

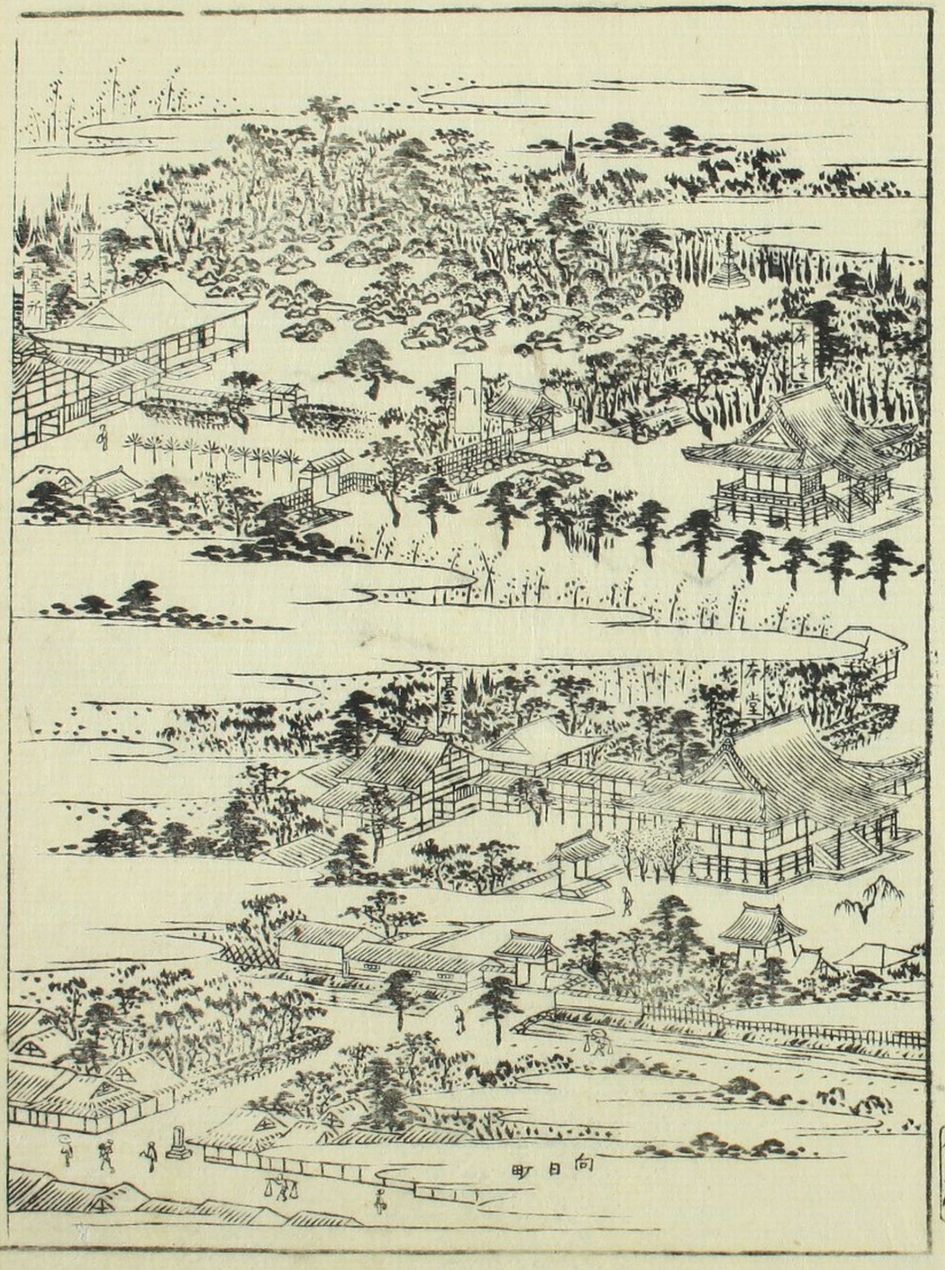
佛谷　天子陵乃奥海印寺村の西乃谷と云ふ谷口ふ佛像の如ふ岩を故ふ名つくる所の東西ふ寺院の字あり勝樂寺多門寺住生院等あり

伊澤

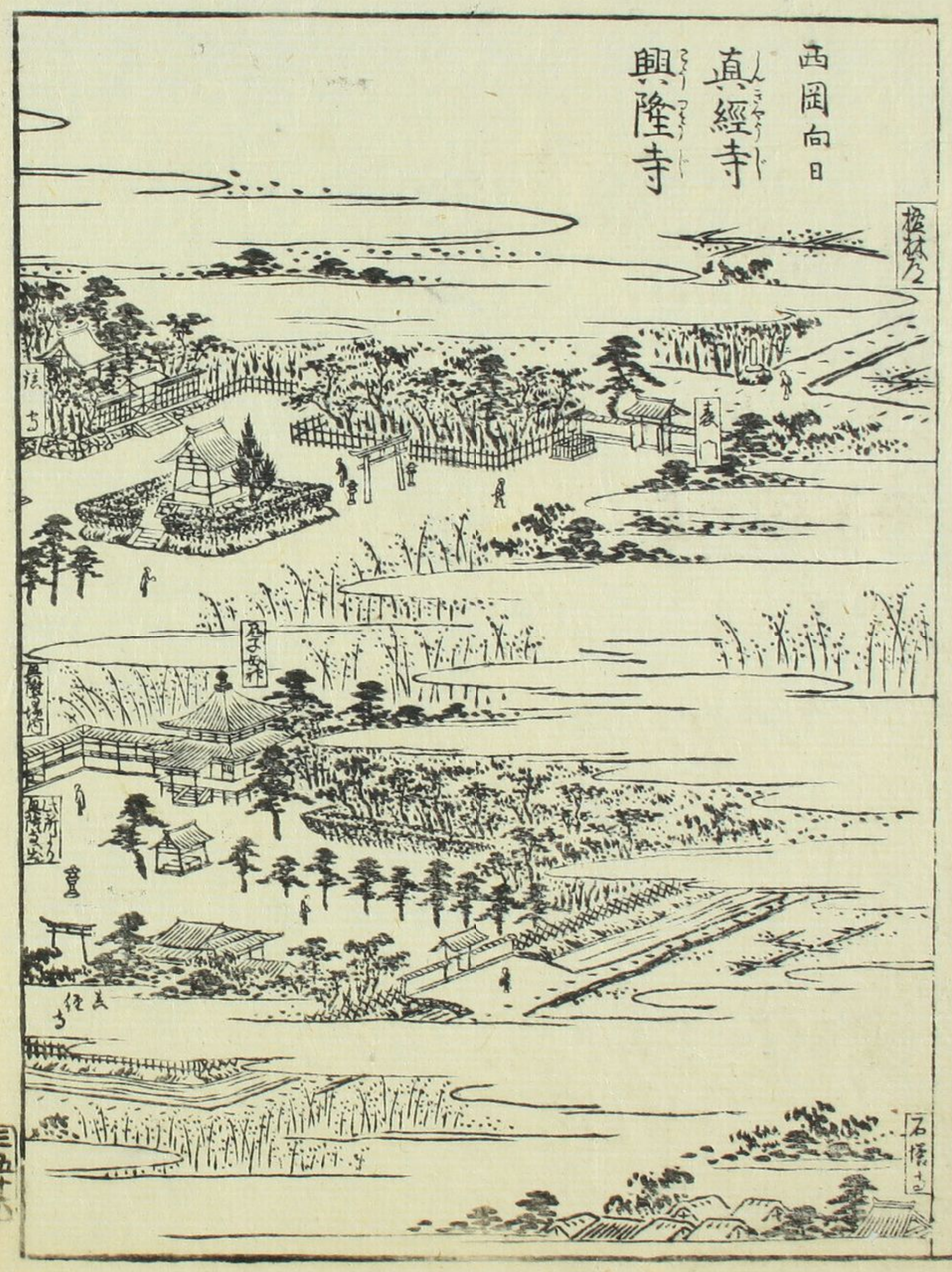
楊谷
立願山
楊谷寺

淳和天皇陵 西乃岡物集女ふあり土人廟所塚とて上ふ松数株あり又
うりとんとて又燈爐前とてあるを車塚乃南の家をいふ 陵より巽の方一町餘うり星神輦を埋る所
續日本後紀曰
天長七年五月辛巳後太上天皇皇太子ふ顧命して曰予素花飯を尚に
況や人物故優耗せんや歛葬乃具一切儉を釋て國人と煩を事
固辭して還しまれ葬し畢らは縗を釋て朝例の凶具
なるべし葬ハ藏之人乃觀ざるべ事を欲て送葬の辰夜陰を期
なし追福の事ハしく儉約を旨とし又國忌ハ遠き故遵ふ故ふあるとも
ひとしく都司故絆苦せしむ又歳竟ふ絆を分ち號して荷前とて
これを幽明ふ論るふ頻ひあるて遂ふ停止すべし
朝家ふ達をそれ人の子の道ハ教ふ遵ふ故先ふ死を別ふく違
失をべ以て重て命して曰予戚人没して精魂天ふ帰るとも空
冢墓故存ふ鬼物ふて又憑ハ又終ふ崇故ふして長く後累
故貽に今骨故碎て粉とふし碎て散ふしてふみだて
中納言藤原朝臣吉野奏して曰むう宇治乃雅慶皇子ハ我朝乃
賢明之ふ皇子遺教して骨故散ぜしめてふ後世ふ示れふ效人
たるべしこれ是親王の事ふて帝王乃述ふあるべし我國いまだ陵を
越さるふ風ざるを山陵ハ宗廟の如し宗廟の制ハ礼子乃孝の所
ふ仰敬せんとふ於て之ふ報命して曰予氣力綿惙して論決をる事未
半紙にた卿等嵯峨聖皇ふ奏聞し裁を蒙まとし詔あるて委未
後太上天皇淳和院ふおわて崩じ給ふ聖壽又十又さ乃ひ
山城國乙訓郡物集女村ふ葬て奉る所骨を粉ふ碎き大原野
乃西の丘嶺乃上ふ散しまふ之を墓と号る塚二つあり其一則
今大原野勝持寺之の西戌の向れ峯ふ經塚と号る所ふて大原の之陵と
天皇の沛骨を散る所ふて三代實録ふ出

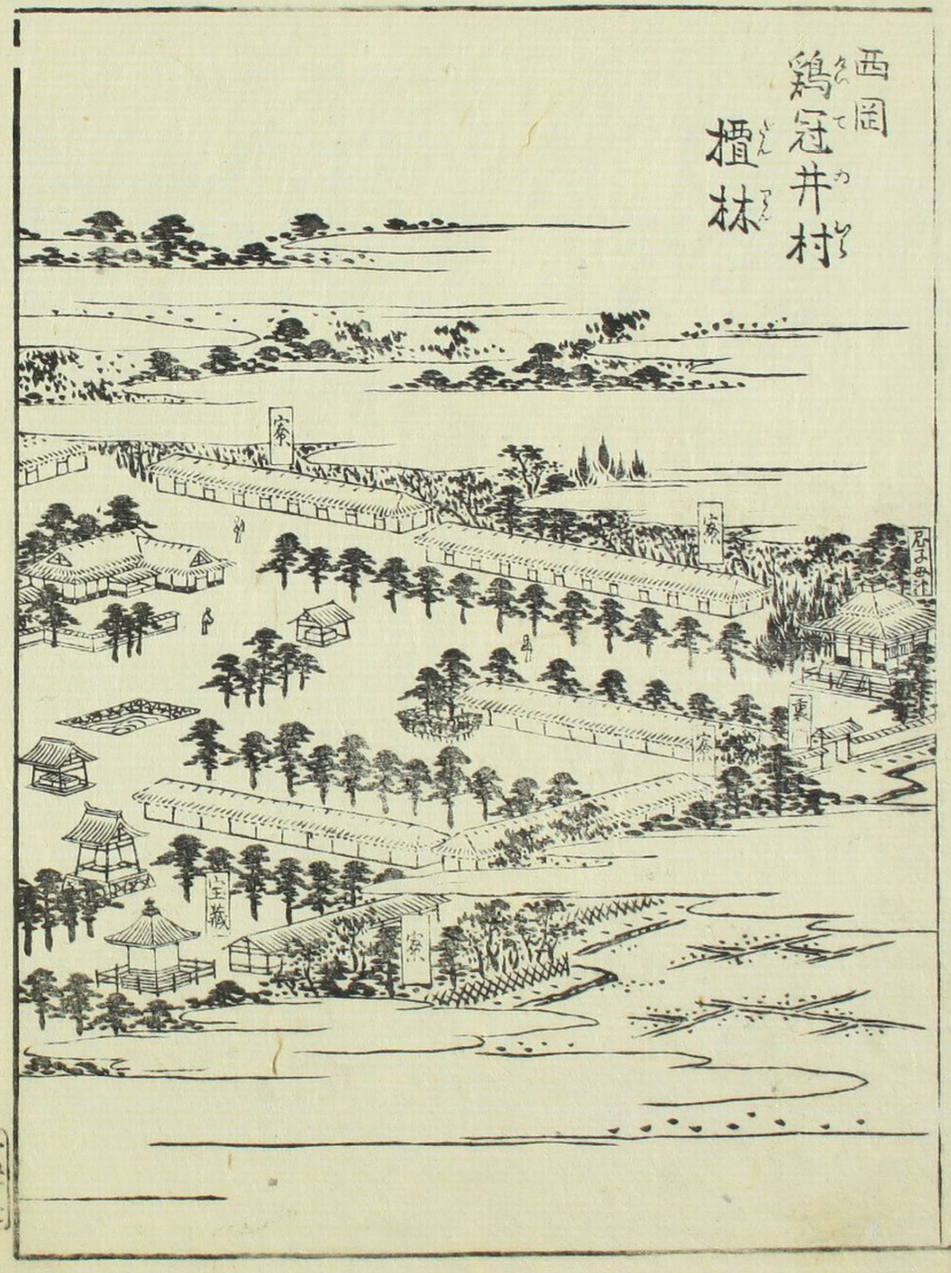
長岡舊都 桓武天皇平城より遷しの人都と其方境い大原野
の東南より東ハ向日社限て西ハ紅山ふ故係て南ハ乙訓
乃郡ふ至て又大原野之郷の郡名とし長岡と號
そる事三代實録曰大原野長岡村と記ふ又遷都の事ハ後日本紀ふ出
皇城舊蹟 大原野春日社一鳥居卯辰乃ゑと二町ばかり芝生の地
これなりとて又餘ハ前條ふ見へたれいふ又畧しぬ
在原業平趾 長岡上羽村ふ民家乃燒地の中ふ業平れ姫の塔とて
ある五輪塔之ふ儀ふ二基ある業平父塔業平塔なるとて
伊勢物語五十八段曰
昔ゑ男ありけり長岡といふ所ふ家ありけり
きるをそこ乃となりなる女ふこころもちそなりけり
ね中成ゑれを西乃方なりけるふ女ふもとの
ぞえるのぐ云いさやしんとしてあるまりていろきれを出おとこ
てわくふるれふれたを女
古今 あまふかうあれてくよの宿なれや行人も書ぬ
とらしては宮ふあつまりきかそをくれぞこれおとこ
むくはひてあれる宿れ
そそをん出ぐうりなほ出女どもやひろうといひくれハ
うちうちひて落かひろよ
法然上人宗門弘通の為嵯峨を出て西ふ廣谷ふ居しさ時人
廣谷 舊沼ふ其所ハ光明寺の奥海ふ寺より光明寺ふ至ハ道うり
申の方乃奥海ふ寺
今舊沼の碑を建る

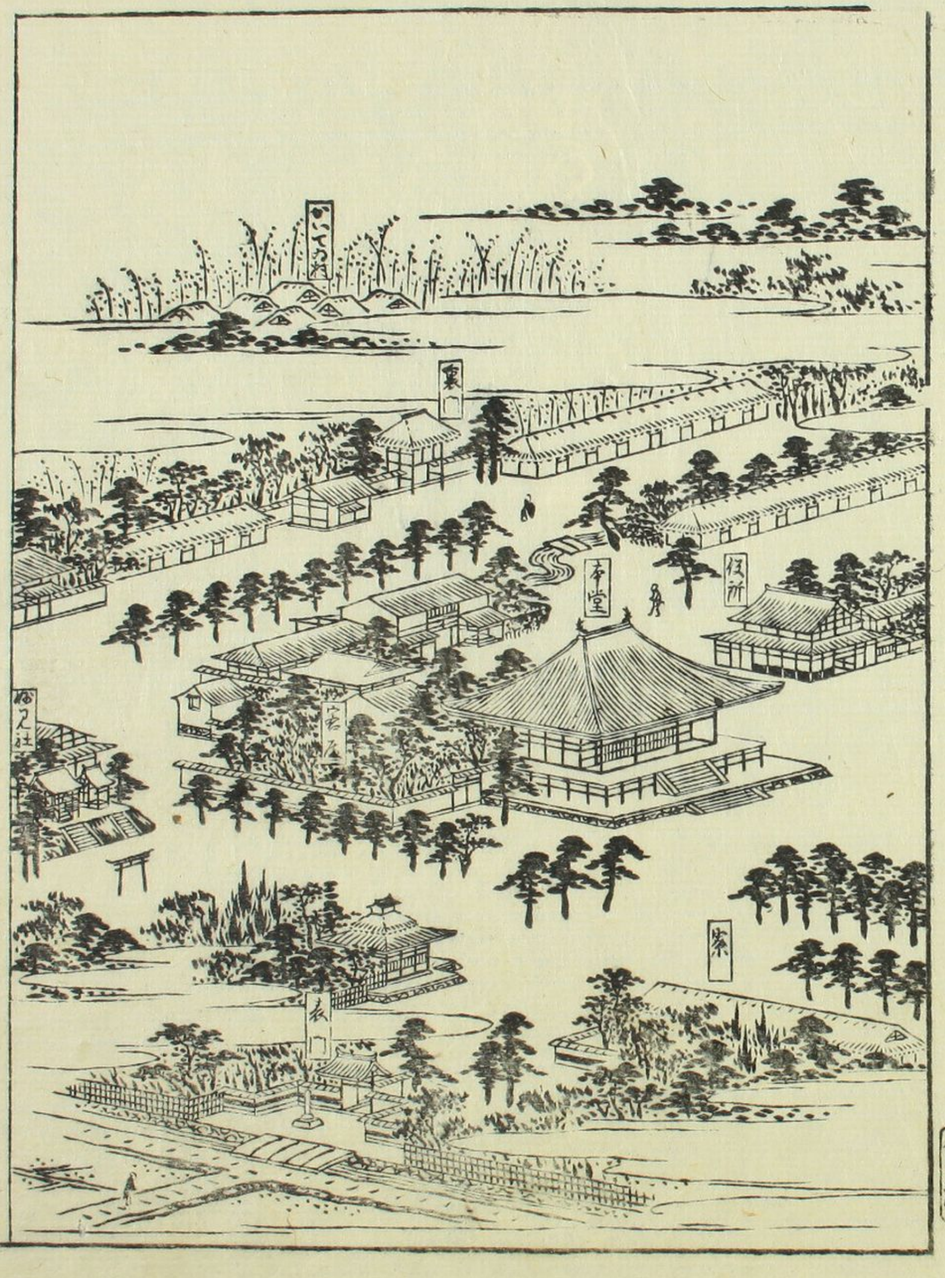


伊澤



西園
鶏冠井村
檀林





長岡天満宮 郡田村の西ふあり由緒ふ當社沖鎮坐のそもゝ久代
おゝ遠劫あるべきを再書に
し地ふ弘法大師れ開基し給へ真言の精舎なり厥后世々大師れ流業
住職まそ本尊ハ薬師佛を安置ふ又今乃上羽村の名ふ立原業平卿の
亭宅あり其頃ハ菅亟相いまゞ沖幼年ふはしく業平卿沖立館の所ハ
菅公もゆりく伴給ひてし澤利ふも沖老樂まし給へ管弦ゑゞもゝ
しゝ業平卿設し給ひて後も時々しきふ入樂あり雪月の風光紙
感し勝景を歌ひ給へ行僧も沖幼年より沖馴染ゑれ懇志を運
び遠ゆ沖饗應ゆされ多時ふ昌泰四年菅公左宰府ふ謫遷し給へ
行傍驚き累年の郷信ゑれど沖餘殘紙押み淀り移度のかゝりふ
趣く別腹敕行みて社を志ぼりる菅公其時ゑり尊容をうつし
行倍ふ授與し給へそれより二歳を歴て菅神紙紫ふかゆて薨沖し
給へ紙聽伴へ地ふ沖社といゝるかの神像を安置し朝夕敬礼し
多星霜累て堂宇も荒廢し給へれゝも沖社ハ殿給ふ 茶所佛の脇士十二神
の内一躰ゆ

神樂殿乃傍 神扉ハ秘封みて遷宮の時ハ沖領主京極殿より神宮者
田家へ沖頼あゆて執行ひ給へ形へ今も神威いち者ふくして猶へふ
統間ふく書画乃奉納舞曲をまひうゞの奉樂あり社頭乃賑ひ殊
さゝ近き中ゝ境地の風景補ゑあり其ハ中ゝ彩る日ゝげふ松乃緑
まゝく楊ゝ青ゝしふ白ひ花ゝく樹の拯根ふ神燈乃かゝけ輝き櫻花
の朧々ゝ多ゝ九ハ入ゝ多ゝ九ハ入ゝ多ゝ九ハ入

仁和山三尊寺　岡田村にあり。釋迦宗にて本尊の阿弥陀佛立像二尺とす。又觀音弘安立像一尺計

鎮守祠　佛殿の傍にあり。勸請する所、雨寶童子を安置す。弘法大師の御作なりと。同しき像、弘安立像一寸八分。當寺弘法三尊寺と号す。本堂の二尊ハ一躰弘安合しるす由縁なり。又山號の額、義詳寺と書す。

入定塔　特のうしろにあり。立高の開祖入定の所なりと。

神足社　岡田の南にあり。神社考額、神足社、延喜式に載る。又文德實錄曰、齊衡元年、冬十月戊辰、以山城國神足神列於官社。

勝龍寺　神足の南隣にあり。又村の名も勝龍寺と。寺、眞言宗にて本尊十一面觀音の像、長七寸。開基詳なし。

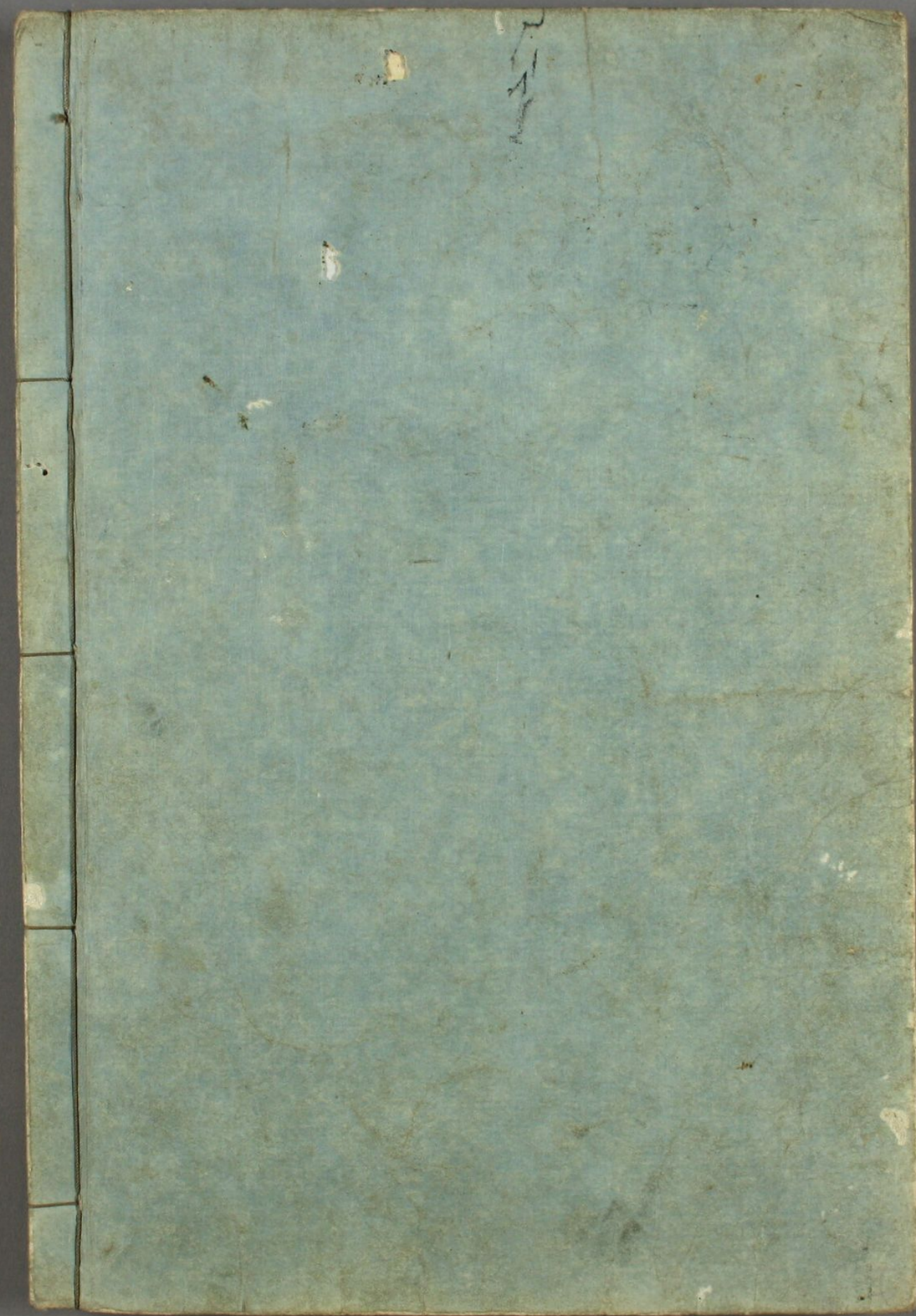
正氣山成就院　圓明寺の南十町にあり。宿院村にあり。淨土宗にて本尊阿弥陀佛、都の仏師作。坐像二尺五寸。脇士ハ毘沙門、天湛慶の作。不動尊ハ弘法大師の作なり。開基ハ教圓法師なり。

白山社　同所にあり。教圓法師勸請する所。

鶏鳴水　寺の乾ハ町にあり。白と接して半丁の時、涌出る。小祠あり。

成恩寺　山崎にあり。禪宗にて本尊阿弥陀佛。八幡宮神託開基。行教和尚中興。上古ハ所にあり。律宗にて本尊阿弥陀佛。八幡宮神託開基。行教和尚中興。

袖摺松　山崎妙喜庵にあり。千利休未だ居士なる時、休ハ茶亭四畳半の圍あり。利休所ふ。

神降山　山崎離宮八幡宮の後。詳しくハ八幡宮沿革に向の所なり。

都名所圖會拾遺卷之三終